昨今の現場から

（財）日本ハンドボール協会常務理事・普及本部長　角　紘昭

1．より一層の選手の能力の開発と指導者の連携を

近頃の小中学生の大会に出場するチームには、バランスのとれた選手が多くなったと感じられる。具体的には、柔らかなボール扱いや力強いシュート、すばやい身のこなしを支えるステップワーク、ボールや相手の動きの先を読む判断力、等々の優れた選手が多く見られるようになってきたことである。特に中学生のチームでは、コート全体に広がる視野を持った選手、的確な判断ができる選手、様々な体勢から力強いシュートを打てる選手が多くなってきている。これらのことは、

第一に、小学生低学年の時代からボール遊びを経験している

第二に、基礎的な運動能力の高い子がハンドボールの楽しさを知り継続している

第三に、発達段階に則した指導方法の工夫がされている

等々のことが考えられる。

第一については、小学生チームの増加が著しく且つ、中学校での継続した活動の結果である。しかし、小学生チームの増加に対して小学校から中学校へ継続して活動できる場はまだまだ不足している。今後は、小・中の継続化と共に、中学生のクラブ（U－15）の活動も視野に入れることが必要である。

第二については、特に運動不足といわれている現代の子供の持っている運動能力は未開発である。全力で走ったり跳んだり投げたりする場を与えることにより、小学生時代の運動能力は開花する。そのため、特に低学年の段階では、ハンドボールに特化しないで「全力で取り組める遊び（運動）」の場を提供する考え方が必要である。

第三については、小中の指導者の交流がなされており、個々の選手の特性を生かす指導や発達段階に則した指導がなされている。特に、中学校の全国大会で上位に残るチームにはこの傾向が強い。

今後は、高等学校のチーム（U－18）の指導者との連携を密にして、個々の選手の特性を生かす指導や発達段階に則した指導が十分になされる必要がある。さらには、各年代層の指導者相互が、選手一人一人の生涯にわたるスポーツライフを考えた指導法についての意見交流も必要である。

2．早急に心の健全な発達を考えた指導の導入を

現代っ子は、耐性が無い（ちょっとしたことに躓きやすい）、集団の中での葛藤に弱いという特性を持つと言われている。2005 年から 2007 年までに起きた小学生から高校生までの自殺事件 7 件の内、課外に行われる部活動でのいじめが原因の一つと思われるものは 4 件と報告されている。

また、（財）日本ハンドボール協会の女性委員会が昨年行ったアンケート結果では、

「試合に負けたことを理由に」：○体罰的な行為や練習をさせていた
○人格を否定するような叱責を与えていた
○指導者の感情的な態度が目立った

と報告されている。

今、青少年層のスポーツ指導者には、技術指導はもとより選手の心の内面にも気を配った指導が求められている。すなわち、「自尊感情の育成」、「アイデンティティーの確立」等々への指導的配慮が必要とされてきているのである。この年代層のハンドボールの指導者も競争原理のみを教えるのではなく、心の健全な発達を進めるような指導法を取り入れることが必要である。

惜しくも男女とも3位に終わる

—女子は世界選手権の結果待ち、男子は夢絶たれる—

2点とも　写真提供・スポーツイベント社

2008 北京オリンピック女子アジア予選は、8月25日（土）から29日（水）までカザフスタン（アルマトイ）にて日本，カザフスタン，韓国，カタールの4ヶ国が参加して行われた。日本、カザフスタン、韓国が2勝1敗で並んだが得失点差でカザフスタンが優勝し、五輪出場を決めた。日本は3位に留まったが、12月に開催される世界選手権（フランス）の順位によっては、北京オリンピック IHF 最終予選への出場権を得られる可能性を残した。

一方、男子アジア予選愛知・豊田大会は、9月1日（土）から6日（木）まで豊田市・スカイホール豊田で開催された。日本、韓国、クウェート、カタール、アラブ首長国連邦（UAE）の5ヶ国で行われた大会は、4勝を挙げたクウェートが北京への出場権を獲得した。日本は、韓国にも敗れ、2勝2敗の3位で終了。1988年ソウル五輪以来20年ぶりとなる五輪出場を逃した。

試合結果／女子

◆8月25日（土）

日　本　30（13—14、17—15）29　韓　国

北京五輪の出場権をかけた女子アジア予選がカザフスタンで開幕した。日本の初戦の相手は強豪・韓国であった。ベルトジャパンのみならず、これまでの日本女子チームがのどから手が出るほど欲しかったのが、韓国からの勝ち星である。ここカザフスタンで念願が達成できるのであろうか。

試合開始直後、韓国に2点奪取される。警戒していたポストを絡めたショートコンビでの失点であった。日本は金城や田中が得点するものの、いまいちエンジンのかかり切らない立ち上がりとなった。韓国10番OH選手がポストシュートに対して後ろから手を掛けたプレーでレッドカードを受けたが、代わって入った3番Kim選手を中心に攻撃を組み立ててきた。前半は終始韓国が先行する展開となった。日本は持ち前の“テンポ”の攻撃展開を心がけるが、韓国のアグレッシブな守りにパスのリズムを崩され、ミスが続いてしまう。しかしなんとか喰らいつき、14対13の1点差で前半を折り返した。

後半も前半と同様、日本にとってすっきりとしないスタートとなった。一方韓国はスピードのある速攻とバックプレイヤー、ポスト間の堅固なコンビプレイにより着実に得点を重

写真提供・スポーツイベント社

ねていく。しかし韓国の攻撃パターンは日本チームにとって事前に十分に予測していたものであり、何度もビデオ分析で確認してきたものであった。これまで日本チームは“わかっていてもやられる”という歯がゆさを味わってきたが、今回はチームでそれを克服した。15分過ぎ、一度はベンチに下がっていた田中がコートにもどったあたりから、日本チームの集中力が増した。ディフェンスの動きが明らかに良くなり、なんども練習してきた“コンパクトでよく動くDF”が機能し始めた。さらに藤井、植垣の若手が要所で気持ちのよいディスタンスシュートを決めて同点とした。それからは両者一進一退の攻防が続いた。28対29の日本1点リードで迎えた残り30秒、韓国に7mスローを許してしまう。3番Kim選手がぴしゃりと決めて29対29の同点となる。残り時間から考えて、次の攻撃が最後の攻撃となる。残り10秒で藤井が鋭く切り込みフリースローを得た。フリースローからのパスを受けた田中が会心のステップシュートをゴール右すみに突き刺した。時間ぎりぎりまでボールを保持して韓国に次の攻撃の時間を許さず、1点差の劇的なタイムアップとなった。

この勝利を通じて、日本チームはさらにひとステップ成長したものと思われる。

〔得点〕　田中9、金城7、佐久川5、藤井4、早船2、小松・水野・植垣1

カザフスタン　44（20—9、24—5）14　カタール

◆8月27日（月）

カザフスタン　28（14—15、14—7）22　日　本

北京五輪予選の第2戦はカザフスタンとの対戦であった。開催国ということで、会場は地元のファンで埋め尽くされ、日本チームにとって四面楚歌の状態での試合であった。体格面で圧倒的に劣る日本チームにとって武器とすべきはテクニックとスピードである。ベルト監督はその点を強調し、以下のカザフスタン対策を立てた。まず攻撃面では、左右に大きく素早く動いて相手ディフェンスを揺さぶり、ディフェンスの間隙を突く。さらにディフェンス面ではコンパクトにまとまり、長身のシューターに対しては積極的にコンタクトしてシュートを阻止するというものであった。

写真提供・スポーツイベント社

前半開始早々、カザフスタン11番が強引なカットインで得た7mスローを自ら決めて先制した。しかしすぐさま小松が取り返し、一進一退の攻防に突入した。対策どおり、左右に揺さぶる球まわしから金城、早船らがディスタンスシュートを決め、さらにGK勝田の好セーブも光った。カザフスタンは体格を活かしてポストを絡めたプレイで7mスローを誘った。前半は日本が先行する形で時間が経過し、一時は2点のリードを奪ったが14対15の1点リードで前半を終了した。

後半は日本のディフェンスがよく機能した。谷口らを中心にコンパクトかつアグレッシブなディフェンス隊形を保ち、長身シューターを阻止するとともにダブルポストの優位な位置を取らせないことに徹底した。カザフスタンは日本のディフェンスをかなり攻めあぐねており、フリースローからの直接シュートを狙うか、7mスローを誘発するくらいでしか得点できない状態が続いた。こういった中で後半15分まで日本が常に2点リードを保ったまま時間が経過した。しかし後半16分の金城の7mスローによる得点を最後に、日本の得点が止まってしまった。逆にカザフスタンは4連続7mスローで日本との差を縮め、さらに逆転した。後半24分に佐久川が1点を返すがその後もカザフスタンの7mスローが止まらず、さらに日本のミスも手伝って結果的に28対22の6点差でタイムアップとなった。

日本チームはこのカザフスタン戦において、極めてよい緊張感を保ち、事前の対策どおりに的を射た戦いをした。そして後半15分まではハンドボールができていた。ベルト監督を中心にフェアプレイに徹し、正当なゲームを展開した。結果として後半15分からの相手の7mスローの数や、7人もの退場者を出す展開に、カザフスタンチーム以外の何かと戦

わざるを得なかったという事実は否めない。しかし我々は胸を張って死力を尽くしたと断言できる。

〔得点〕 田中 5、藤井 4、佐久川・小松・早船・金城 3、水野 1

韓　国　45（20 — 10、25 — 7）17　カタール

◆8月29日（水）

日　本　49（23 — 5、26 — 5）10　カタール

北京五輪アジア予選、最終戦は中東のカタールとの対戦であった。カタールはここまでのカザフスタン、韓国戦とも大きくリードされて敗戦している。参加チームの中ではやや力不足であるが、日本チームとしては締めくくりのゲームだけに集中した試合にしたい。

試合開始直後に相手エースである 20 番に得点を許してしまったが、そこから佐久川、金城らの速攻で 10 分までに 8 連取した。その後、単発な失点はするものの、ゴールキーパーと連動した硬い守りでカタールの攻撃をシャットアウトし、速攻につなげるというパターンで着実に得点を重ねた。

大きくリードした試合では、概して集中力が途切れることがありうるが、ベルト監督は要所でチームを激励し集中を促した。もちろん選手も監督の声に応え、攻撃の手を休めることはなかった。

後半も、日本の集中力は続いた。カタールに不利な形でシュートを打たせ、飛田、勝田両ゴールキーパーのナイスキープから素早い速攻に結びつけた。8 本の 7m スローのうち、5 本をシャットアウトしたゴールキーパー陣の活躍はすさまじかった。後半 20 分からはカタールにまったく得点を与えず、逆に日本はディフェンスを高く攻撃的なシフトに変更し、さらにカタールのミスを誘った。12 連続得点し 49 点目をカウント。50 点目の攻撃権を得たところでタイムアップとなった。

写真提供・スポーツイベント社

力の差のあるチームとの対戦であったが、"日本のハンドボール" をすることに集中し、結果的に次につながる形で本大会を締めくくることができた。

〔得点〕 佐久川 12、早船 6，田中・植垣 5、小野澤 4、金城・坂元・藤井・大前・谷口 3、東濱・長野 1

韓　国　32（15 — 15、17 — 16）31　カザフスタン

【最終順位】
第 1 位　カザフスタン（2 勝 1 敗）
第 2 位　韓　国（2 勝 1 敗）
第 3 位　日　本（2 勝 1 敗）
第 4 位　カタール（3 敗）

※カザフスタン・韓国・日本は 2 勝 1 敗（勝ち点 4）で並んだが、3 チーム間の試合における得失点差により、上記順位が確定。得失点；カザフスタン（＋5）、韓国（0）、日本（－5）

試合結果／男子

◆9月1日

クウェート　28（15 － 6、13 － 14）20　韓　国

日　本　33（18 － 13、15 － 15）28　アラブ首長国連邦

日本の開幕ゲームはアラブ首長国連邦（以下、UAE とする）との一戦。スカイホールの観客席はジャパンブルーで一色、日本への大応援のなか、UAE のスローオフで試合は始まった。先取点は、開始 1 分、GK 坪根の好セーブから日本が速攻をかけ、20 番門山がカットインで決めた。UAE は、17 番香川をトップにおく日本の 5 － 1 DF を攻めあぐねるが、17 番ワヒードの連続得点などで、8 分過ぎには 3 対 4 と日本をリードする。日本は 11 分過ぎにエース・7 番宮﨑を投入、固い守りから、4 番前田、20 番門山、7 番宮﨑が連続得点し逆転に成功。その後、宮﨑の得点・アシストで得点を重ねる日本に対し、17 番ワヒードのロングシュートで UAE も迫ってくる。

写真提供・スポーツイベント社

23 分過ぎ、GK 高木の好セーブから、5 番末松、20 番門山が速攻で連続得点し、15 対 10 と 5 点差をつける。UAE は 25 番アブダラのポストシュートなどで追い上げるが、29 分 2 番豊田が 7m スローを決め、前半を 18 対 13 と、日本リードで終える。

後半は 8 分までに 24 対 17 と点差を広げ、日本が完全に主導権を握ったようにみえた。しかし、10 分過ぎから 11 番中川、8 番東が立て続けに退場、後半 16 分には UAE11 番シーハブのロングシュートが決まり、26 対 23 と日本は 3 点差にまで迫られた。ここから日本は 2 番豊田の活躍、UAE は 17 番ワヒードの得点で一進一退の攻防を繰り広げる。残り 5 分を切り、3 番下川の速攻に対し、UAE25 番アブダラがコンタクトし、失格。この 7m スローを 8 番東が決め、31 対 27。その後、5 番末松の速攻、18 番山口のポストシュートと 3 点連取し試合を決めた。日本は勝利をあげ、北京オリンピック出場に一歩前進した。

〔得点〕 豊田 7、末松 6、宮﨑・門山 4、前田 3、下川・東・中川 2、永島・中畠・山口 1

◆9月2日（日）
カタール　33（16 − 15、17 − 13）28　アラブ首長国連邦

◆9月3日（月）
韓　国　35（19 − 5、16 − 9）14　カタール

クウェート　29（15 − 15、14 − 12）27　日　本

大会 3 日目、共に 1 勝で迎えた 2 戦目、北京に向けて両チーム共に大事な一戦である。審判はイランのペアである。公平なジャッジを期待したい。

熱い声援の中、クウェートのスローオフで試合が開始。立ち上がりクウェートが 7 番アシャマリィのサイド上がりからのミドルシュート、1 番アルラジィディのミドルシュートで 2 点連取。しかし、日本は 20 番門山、17 番香川のミドルシュートで取り返し同点にする。その後日本は 7 番宮﨑のスピードある速攻、カットイン、20 番門山の 3 連続得点などで得点を重ねるが、クウェートは 7 番アシャマリィのサイドシュート、13 番アルマルズークのミドルシュートがよく決まり、手に汗握る一進一退の攻防が続く。日本は 20 分に 9 番永島が退場になり流れがクウェートに傾きかけるが、16 番ＧＫ高木の好セーブがチームを助け、2 番豊田の活躍で追いすがり 15 対 15 の同点で前半戦を終了する。

写真提供・スポーツイベント社

後半に入りクウェートは 4 連続得点で日本を突き放し 19 対 15 とリード。後半 6 分、日本は 20 番門山のミドルで反撃を開始する。しかし、11 分過ぎ 9 番永島がまさかの失格となる。日本はキャプテン 11 番中川を投入し流れを引き戻し、8 番東の 2 連取で後半 14 分過ぎに 21 対 22 の 1 点差に迫る。しかし、クウェートは 20 番アシャマリ、5 番アルモテェリィの活躍で、追いすがる日本を突き放す。残り 6 分、5 番末松の速攻で 1 点差に迫り、観客の熱気も最高潮となる。ところがクウェートは粘り強いボール回しからの 20 番アシャマリのミドル 2 本と 5 番アルモテェリィのミドルで 3 連取し、粘る日本を再度突き放す。日本はラスト 1 分、退場で 2 人少なくなったクウェートにオールコートマンツーで 2 点を返すが、結局 27 対 29 で惜しくも大切な一戦を落とした。

〔得点〕 門山 7、宮﨑 5、豊田 4、末松 3、東・香川・山口 2、前田・中川 1

◆9月4日（火）
クウェート　37（17 − 8、20 − 18）26　アラブ首長国連邦

◆9月5日（水）
韓　国　35（18 − 10、17 − 15）25　アラブ首長国連邦

日　本　36（21 − 12、15 − 13）25　カタール

今日日本に勝つと優勝の可能性が残るカタールと、是が非でも今日・明日連勝し、北京オリンピックに夢をつなげたい日本の試合は、日本のスローオフで始まった。

カタールはツートップ DF で日本のパスワークを乱そうとするが、日本は 20 番門山がカットインから 7 m スローを誘い、これを 2 番豊田が決め先制。すぐ後 9 番永島、2 番豊田と速攻で立ち上がり 3 連取し、主導

写真提供・スポーツイベント社

権を握る。カタールもバック、サイドと得点し10分で7対4と日本リード。10分過ぎカタールのDFに慣れた日本は、今大会好調の20番門山、4番前田のバックシュート、2番豊田のスカイプレーと得点を重ね、20分で14対8とリードを拡げる。両チーム警告、退場が相次ぐなか、2番豊田の速攻に対し、カタールGK1番アルバッハールが飛出し接触、これが失格となる。その後日本は7mスロー、カットインと着実に加点しリードする。終盤、両チームに退場が相次ぐ中、日本不利な場面でGK1番志水がナイスセーブ、21対12で前半終了し折り返す。

後半コートプレーヤー、日本4人、カタール5人でスタート。カタールは7番ガザールのバックシュートで先制するが、日本はサイドシュートなどで3連取。その後もどこからでも得点を重ねる。カタールも速攻、サイドシュートと追い上げるが、大事なところで退場が重なりペースに乗っていけない。終盤日本に疲れが見えたところを18番アリ、21番アルブーアイネンが連取するが、結局36対25で日本が明日に夢を繋いだ。両チーム合わせて、退場12人、失格2人と荒れた試合のなか、要所要所でメンバーを代え、ベンチ全員をコートに送り出したリマニッチ監督の采配が光った。

〔得点〕 門山6、豊田・末松・中畠5、前田3、下川・宮﨑・東・永島・香川・山口2

◆9月6日（木）

クウェート　29（17－12、12－11）23　カタール

韓　国　30（15－12、15－13）25　日　本

大会最終日、両チーム共にオリンピックのIHF世界最終予選を賭けての戦いである。サポーターの応援にも熱が入る。審判はドイツのペア。日本のスローオフから試合開始。韓国が7番チョンのミドルシュートで先制するが、日本はすかさず5番末松のサイドシュートで取り返す。その後も点を取り合い前半5分で3対3。しかし、日本は中盤から韓国の高めの3－2－1DFを攻めあぐみ、5分間得点をすることができない。それに対し韓国はベテラン13番尹、7番チョンの活躍で4連続得点し9対5と差を拡げる。たまらず日本がタイムアウト。その後、日本はキャプテン中川を投入して流れを変え、20分7番宮﨑の2連続得点で10－8と2点差まで追い上げる。24分過ぎ日本が7mスローを決め、11対10と1点差に迫ったところで、今度は韓国がタイムアウトを取り、再び流れが韓国へと傾き15対12と韓国リードで前半が終了。

写真提供・スポーツイベント社

写真提供・スポーツイベント社

後半に入り韓国が7番チョンのサイドシュートで先制。しかし、日本は、再三のピンチをGK16番高木のナイスセーブでしのぎ、7番宮﨑のミドルシュート、20番門山、5番末松の速攻で3連取し16対15と1点差に迫る。その後一進一退の展開となり日本は、10分過ぎ11番中川、20番門山の連続得点でついに18対18の同点に追いつき場内が沸き上がる。13分過ぎ韓国が9番朴、14番趙の連続得点で2点差となるも、日本は4番前田、7番宮﨑が得点し追いすがる。しかし、15分過ぎから13番尹が大爆発し7連続得点で日本を突き放しにかかる。日本も20分過ぎタイムアウトを取り、懸命のDFから少ないチャンスを20番門山、18番山口が決めるが力及ばず30－25で敗れ、北京への夢が断たれた。

最後まで強敵・韓国を苦しめた日本のファイティングスピリットに、場内をブルー一色に染めたサポーターから惜しみない拍手が送られた。ファイナルゲームにふさわしい今大会のベストゲームであった。

〔得点〕 宮﨑7、末松5、門山4、豊田3、山口2、前田・東・永島・中川1

【最終順位】
第1位　クウェート（4勝）
第2位　韓　国（3勝1敗）
第3位　日　本（2勝2敗）
第4位　カタール（1勝3敗）
第5位　アラブ首長国連邦（4敗）

第20回 全国小学生ハンドボール大会

最終順位

■男子

優勝：下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）

準優勝：神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）

第３位：小島小ハンドボール部（長崎県）

第４位：安居ブルーサンダースポーツ少年団（福井県）

■女子

優勝：窪スポーツ少年団ハンドボール部（富山県）

準優勝：スポーツ少年団水海道ハンドボールクラブ（茨城県）

第３位：平針南小学校（愛知県）

第４位：桃園小学校ハンドボールクラブ（京都府）

総評

京都府ハンドボール協会副会長・大会副委員長　小西 博喜

本年は大会発足20周年（２巡目京都国体より）を迎え、記念すべき行事となりました。大会前日には記念レセプションが盛大に開催され、出場回数の多いチームへの表彰等が行われました。

今夏は連日35度に近い館内となり、汗だくのプレーと保護者の声援はいやが上にも選手たちを勇気づけました。

各競技会場の設営と大会実行委員の支援体制の対応は例年のごとく適切に運用され、あらためて京田辺市職員のご支援に深く感謝申し上げたいと思います。また、参加チームの皆さんには、監督・コーチ、指導者の選手強化方針に従って、ゲームの効果的な配慮が行き届いており、素晴らしかったと思います。男女共通していえることは、一つの反則にこだわらず、ゲーム全体の展開を素早くヨミ取り、味方を有利に導こうとする意欲がプレーヤー全体に浸透していったことは大きな成果でした。

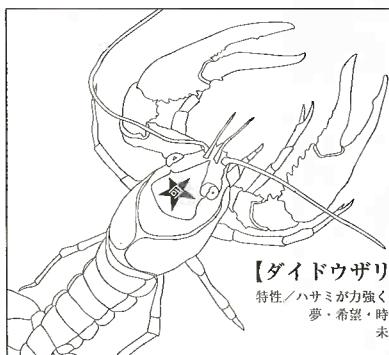
決勝トーナメント男子８チームをブロック別にみると、九州３、関東２、東海１、北陸１、近畿１であり、女子８チームでは、東海３、北陸２、関東１、九州１、近畿１と全国的な普及強化活動が広域にわたっている印象を受けました。

男子の部で初優勝した下郡スポーツ少年団（大分）の平均１試合８点以上の得点をあげる長身で体格に恵まれた山本選手のシュートは、高い打点から打ち下ろす並はずれた抜群の威力をみせ驚かせました。

決勝で下郡スポーツ少年団は神森小学校（沖縄）と対戦、19対19の同点、延長戦も６対６、さらに７mTC（１チーム３本）では下郡が２－０と決めて、結果は27対25で見応えのある好ゲームの末、初優勝を飾りました。

女子の部決勝は、キャリアに勝る窪スポーツ少年団（富山）が、立ち上がりから連続ゴールを決めて攻守によくまとまり、危なげない試合運びを見せました。窪スポーツ少年団は前半を７対３とリード、後半も８対５と試合の主導権を握り、安定したゲーム展開で初優勝、順当の勝利といえるでしょう。

小学生チームの基本的な強化にあたって、選手が「ハンドボールが好き」という自覚を持つことは必要ですが、家族の支援や指導者がどんなチームを育成したいのか、その資質が求められるサポーターの要素も大きく影響していることがわかります。

下郡スポーツ少年団・山本君の魅力と、彼の精神面の成長を将来に期待する未完の大器として大きな楽しみにしたいと考えます。

男子優勝：下郡ハンドボールスポーツ少年団

「あきらめない気持ち」でつかんだ金メダル！

下郡ハンドボールスポーツ少年団監督　古谷 裕邦

正直、今年のチームが優勝出来るとは思ってもみませんでした。くさい言い方ですが、決勝戦は「勝利の女神が下郡にほほえんだ」のだと思っています。実力以上の何かがありました。もちろん今年のチームにも自信はありました。でも浮き沈みの激しいチームなので、京都に来る前は子どもたちに「優勝するかもしれんし、予選リーグ敗退かもしれん」という話をしました。一昨年３位、昨年２位と順位を上げてきただけに、出発前にはたくさんの方から「今年は優勝を」と言われました。普段ならプレッシャーにつぶされてしまうのでしょうが、でも不思議と今年はプレッシャーはありませんでした。「今年は今年」そう割り切っていたと思います。ですから最終日まで勝ち残れたことで満足していました。

ただ決勝になって、何としても勝ちたいという気持ちになったのは確かです。しかしゲーム中は「もうだめだ」と思う場面の連続でした。私はいつも子どもたちに「最後まであきらめるな」と話すのですが、主将の光吉君の２回目の退場や、延長戦残り 50 秒での２点負けの場面では私自身、あきらめの気持ちばかり先行していました。でも子どもたちは決してあきらめませんでした。このあきらめない気持ちが終了７秒前の後藤君の同点ゴールと７ｍスローでの平山君のスーパーセーブ

に結びついたのだと思っています。この大会で私は「あきらめない気持ち」を改めて子どもたちに教わった気がします。子どもたちは本当によく頑張りました。心から選手をたたえたいと思います。

さて下郡ハンドボールがここまでの結果を出せるようになるまで、６年間、保護者をはじめたくさんの方々の支援がありました。特にチームの戦術面を飛躍的に向上させてくれた井上喜美雄コーチとゴールキーパーの指導を受け持ってくれた田島美和コーチにはお礼の言葉もみつからないほど感謝しています。又子どもの中に入って練習を手伝ってくれた松山真也コーチの献身的な姿勢にも助けられました。みんなの協力があっての全国優勝でした。本当にありがとうございました。

終わりに、京田辺市をはじめ、猛暑の中、大会運営にご尽力をいただきましたハンドボール関係者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。来年も再びこの大会に来ることができるよう日々精進して頑張りたいと思います。またよろしくお願い致します。

「うれし涙」が出た決勝戦での勝利！

下郡ハンドボールスポーツ少年団主将　光吉 琢磨

第 20 回という記念の大会で優勝出来てとてもうれしいです。僕たちは一昨年、昨年と、あと一歩のところで優勝に届かず、悔し涙を流してきました。それだけに、今回の決勝戦では「絶対に勝ちたい」と思っていました。決勝の神森小学校戦は前後半では決着がつかず、延長戦に突入しました。その延長戦も後半残り 50 秒までは下郡が２点差で負けていましたが、何とか追いつき、７ｍスローで決着をつけることになりました。よく同点に追いつけたなぁと後で思いました。

７ｍスローコンテストが始まると、僕たち下郡は三人のうち二人がシュートに成功しました。相手のシュートは僕たちのゴールキーパーが一本もゴールインさせなかったので、運良く勝つことが出来ました。その時僕たちは緊張の糸が切れ、今までになくうれしい気持ちになりました。優勝が決まった瞬間、信じられない気持ちで一杯でした。チーム全員がうれし涙を流しました。今までつらく・厳しい練習をしてきたけど、そういうことも一瞬で消えてしまいました。ハンドを続けてきて本当によかったと思いま

す。監督、コーチもすごく喜んでいました。応援にきてくれた人たちも泣いて喜んでいました。

僕がハンドボールを始めたときからの夢は「全国大会で絶対優勝する」でした。今年それが実現してとてもうれしいです。またハンドボールを通していろいろな仲間と出会えたことも楽しかったです。これからも新しい目標を持って頑張っていきたいと思っています。応援ありがとうございました。

女子優勝：窪スポーツ少年団ハンドボール部

自分達の力を信じ、仲間を信じて

窪スポーツ少年団ハンドボール部監督　新井 龍雄

第１回大会出場から19年間出場機会に恵まれず、今回20回大会に出場することが出来ました。過去５～６度チャンスはあったのですが、今一歩力及ばず無念の思いをいだいてまいりました。今回のチームは全員が得点力があり、スピードもディフェンス力も全国レベルの力があるとの思いはあったのですが、予選リーグでは山あり谷ありの試合展開で、少し心配をさせられました。

目標のベスト８での試合から自分たちの力を信じ、仲間を信じ、実にドラマチックな勝利を手にすることができました。最初の一歩を大事にすること、結果ばかり気にしないこと、悔いを残さないように目の前のプレーに集中することを、やってくれたような気がします。

準決勝も気持ちの強さで勝利し、決勝では実に楽しそうに、クラブの「明るく、元気良く！」のモットーそのままにゲームを進め、考えもしていなかった全国優勝というタイトルをつかみました。本当に良くやったと思います。地元の方々の協力、ＯＢ・ＯＧ達の応援、県協会、市協会、感謝するばかりです。ありがとうございました。

選手達はこれからもハンドボール大好きな女の子で、誰からも愛される人になれるよう心から願っています。

全国小学生ハンドボール大会を終えて

窪スポーツ少年団ハンドボール部主将　炭谷 香奈子

私が４年生でハンドボール部に入部した時は部員が少なく、試合すらできない状態でした。やっと部員が集まって試合ができるようになってからも負けの連続でした。6年生になったら絶対に全国大会に出場すると心に秘めて厳しい練習を乗り越えました。19年ぶり２回目の全国大会出場が決った時は、涙がとまらないくらいうれしかったです。

全国大会出場が決ってからは、全国優勝を目標に強い思いで練習しました。

全国大会では、「練習でやった事を出そう」「全力で楽しもう」そう決めて試合にのぞみました。その結果、予選は圧勝し、決勝トーナメント１回戦の木田ブルーロケッツ（福井県）の試合では、後半８対８の同点の残り５分に３人が退場し、絶体絶命のピンチになりましたが、そこから逆に２点を入れて勝利しました。

準決勝では地元・桃園ハンドボークラブ（京都府）を破り、決勝戦では水海道ハンドボールクラブ（茨城県）を大差で下し、夢にまで見た全国優勝を勝ち取る事ができました。

この優勝は、自分を信じ、仲間を信じ、チーム全員が一丸となって戦った結果だと思います。私たちを素晴らしいチームにしてくださった監督、コーチ、かげとなり日なたとなって支えてくださった父母の皆さん、協会、地域の方々に本当に感謝しています。優勝したものしか味わえない貴重な経験を胸に、大好きな仲間と大好きなハンドボールを続けていきたいと思います。

そして、今度は地元・氷見での春中ハンドの舞台で優勝する事を目標にして頑張っていきたいと思います。

第36回
全国中学校ハンドボール大会

男子：吉川市立中央中学校（埼玉県）
女子：東久留米市立西中学校（東京都）が優勝を飾る

総　評

大会を振り返り

大会実行委員会事務局長　佐藤 厚生

本年度の全国中学校ハンドボール大会は、関係当局の皆様のご理解により、開催市である福島市制施行100周年記念事業の一環として「みちのくの　緑に映える　華になれ」のスローガンのもと、8月20日から23日までの4日間にわたり開催されました。

中学生にとって最大の祭典である本大会には、各ブロックの激戦を勝ち抜いた男女各20チームが日本一を目指し戦いました。

会場となる、県営あづま総合体育館及び福島市国体記念体育館は、平成7年に実施された福島国体に合わせて建設された体育館で、全国大会を実施するに相応しい施設です。競技初日にコート4面を利用しての試合を実施することで、初日に全チームが試合をすることができました。このことは、競技2日目以降、ゆとりを持った競技運営につながりました。

では、大会を振り返り、皆様方に全国中学校ハンドボール大会がどのような大会であったかをお伝えしたいと思います。

開催地である福島県からは、強化策が功を奏し、4チームが参加することができました（東北ブロック枠男女各1校・開催地枠男女各1校）このことは大会を一層盛り上げる結果となり、強化担当者には頭が下がる思いです。本大会の目玉は、本年度の春中ハンドを制した東久留米市立西中学校の女子の部3連覇に注目が集まりました。競技初日の第2試合目に登場した東久留米西中でしたが、前半に試合巧者ぶりを発揮し無難に1・2回戦を突破しました。男子の部では、昨年度圧倒的な力で優勝した浦添市立神森中学校の戦いと、春中ハンドを制した吉川市立中央中学校の戦いに注目が集まりました。残念ながら神森中は波に乗りきれず初戦敗退となってしまいましたが、吉川中央中は圧倒的な攻撃力で3回戦に進出しました。開催地の代表も順調に初戦を突破しましたが、春中ハンド準優勝の郡山市立郡山第一中学校（男子）が初戦で敗退してしまったのが残念でした。

3回戦のベストゲームは女子の東久留米西中と周南市立岐陽中学校の戦いでしょう。延長でも勝敗がつかず、2度目の7mスローコンテストで決着がつくという息をのむ展開となりました。

最終日には、男子では関東の3校と近畿の京田辺市立月輪中学校が、女子では東北、関東、東海、近畿の代表がベスト4に駒を進めました。特筆すべきは、開催県の郡山第一中学校が勝ち残ったことです。最終日に地元チームが残ったことは、関係者はもちろん、地元ファンを喜ばせました。

女子の決勝は、東久留米西中と京田辺市立大住中学校の戦いとなりました。一進一退の好ゲームとなり、2度の延長の末、東久留米西中学校の3連覇が達成されました。この70分間の熱闘は、いつまでも語り継がれる試合となるでしょう。また、公立の中学校が全中で3連覇するということは考えもできないことです。監督の尾石智洋先生をはじめとする関係者に心からお祝いを申し上げます。

男子は、吉川中央中とつくば市立手代木中学校の同じ関東勢となりました。前半は手代木中学校がリズムに乗った攻撃でリー

ドしますが、後半に入り、吉川中央中が高さのある堅牢な守りを生かし逆転、初優勝しました。監督の斉藤良昭先生が今年でご退職ということもあり、胴上げされている姿を見たときには、関係者一同、熱いものがこみ上げてまいりました。本当におめでとうございます。

最後になりましたが、大会の関係者の方々、生徒役員のみなさん大変お世話になりました。多くの関係者のご協力・ご尽力によりまして無事大会を終えることができ、感謝の気持ちで一杯です。また、この大会を機会に一層ハンドボールの普及強化に取り組んでいくことをお約束し、私の総評といたします。

■最終順位

【男子】優　勝　吉川市立中央中学校（埼玉県）
準優勝　つくば市立手代木中学校（茨城県）
第3位　守谷市立けやき台中学校（茨城県）
第3位　京都市立月輪中学校（京都府）

【女子】優　勝　東久留米市立西中学校（東京都）
準優勝　京田辺市立大住中学校（京都府）
第3位　名古屋市立東陵中学校（愛知県）
第3位　郡山市立郡山第一中学校（福島県）

■大会優秀選手

【男子】長谷川亮平（月輪・京都）
寺津　篤（けやき台・茨城）
手塚　進（手代木・茨城）
福田　元（手代木・茨城）
加藤　芳規（吉川中央・埼玉）
後藤　健寿（吉川中央・埼玉）
越田　涼（吉川中央・埼玉）

【女子】友清　桃子（東陵・愛知）
白石　さと（郡山第一・福島）
川下　真由（大住・京都）
古江沙也加（大住・京都）
足立　未奈（東久留米西・東京）
中田　知江（東久留米西・東京）
千葉絵里子（東久留米西・東京）

男子優勝校　吉川市立中央中学校

感動の全国制覇

ハンドボール部顧問　斉藤 良昭

この度は、第36回全国中学校ハンドボール大会において、夢に見た、思いもよらぬ全国大会優勝ができたことを本当に嬉しく、素晴らしい結果をプレゼントしてくれた選手一人一人に感謝の気持ちでいっぱいです。

無我夢中、無欲で戦った春の全国中学生大会。思いもよらぬ結果に「本当なんだ…」。自分たちでも信じられない戸惑いを経験し、不安と責任感を感じながら過ごしたその後の数ヶ月…。

「3年間の集大成…ひとつでも多く試合をやろう」この言葉を励みに全国大会出場が決まったあとの10日間、春の大会前同様最後の調整練習に県内高校生チーム、JOC埼玉選抜の仲間に胸を借り相手をしていただいたことがどれほど選手に、そして私に力を与えてくれたことか…。本当にありがとうございました。

苦しんでつかんだ全国キップ。暑さとの戦いの熊谷ドームで勝ち取った関東第3代表。気負いがあった我々にハンドボールの原点を気付かせ戦う集団に呼び戻してくれました。

特に選手たちに徹底してきたことは「ディフェンスの強化、攻撃的な組織ディフェンス」でした。下級生の入部があったとはいえ部員8人の小集団…。学校内での練習ではゲームはもちろんのこと、私のイメージしている練習ができませんでした。週末の活動は保護者の車出しによる県内チーム浦和学院高校（岩本先生）、埼玉栄高校（大高先生）等の高校生との練習試合、又、県外チーム岩手県矢巾中学校、福島県信夫中学校、郡山第一中学校等に大変お世話になりました。特に高校生との実践練習で先輩たちの胸を借り、スピード、身体接触等ディフェンス面の強化に取り組めたことが大きな成果になったと思います。

この感動、感激に驕り甘えることなく次なる夢、ハンドボールの普及強化に微力ではありますが恩返ししたいと考えています。私にとって2度もこんな素晴らしい貴重な経験ができたのも、わがままな自分に辛抱強くついてきてくれた8人の選手たちと、入部当初より本気で支援してくれた保護者の方々にめぐり合えることができたからだと思っています。

「ありがとうございました。」

最後になりましたが、素晴らしい会場と献身的なお手伝いをしていただいた福島県の役員の先生方に心より感謝いたします。

初の春夏連覇をして

ハンドボール部主将　染谷 健斗

吉川中央中学校ハンドボール部は、今年の第二回春の全国大会で優勝を勝ち取り、夏の全国大会でもいい結果を残せるように必死で練習を頑張ってきました。

全国大会一回戦の相手は富山県の氷見南部中学で、前半緊張のせいもあり少しもつれた試合になってしまいましたが、後半得意のつなぎ速攻で得点を重ね、37 対 26 で勝つことができました。

２回戦目は大阪府の体育大学付属中学校とやり、前半お互いのミドルシュートが入り、点の奪い合いが続く試合の流れになってしまいましたが、後半では相手のスタミナ切れもあり、速攻で得点を重ね、38 対 25 で快勝することができ、準決勝に進むことができました。

準決勝の相手はけやき台中学校で、関東大会の時も準決勝であたり、そのときは延長戦までもちこみましたが惜しくも負けてしまいました。なので、この試合で全てを出しきる勢いで試合に臨みました。前半は僕達が押しているような試合展開に見えましたが、シュートミスも多く、それに対して相手は確実に点を決めていたので、８対９と１点リードされたまま前半は終了しました。後半気持ちを切り替え「シュートを確実に決めていこう」と仲間と確認し合い、最後まで気を抜かず一点一点確実に得点を入れていき、32 対 23 と大差で勝つことができ、同時に、前回の試合のリベンジも果たすことができました。

勢いにのった僕達は「ここまで来たなら日本一をとって帰ろう、最後の試合は思いきってやろう」そう言う気持ちで決勝に臨みました。試合前のミーティングでは「落ち着いてやれば勝てる。思いきってやれ」と斉藤監督に言われました。試合が始まって一分、相手チームのポストシュートやステップシュート、ミドルシュートなどが四連続で決まり、すぐさまタイムアウト。監督に気合を入れられ気持ちを入れかえるが前半の間ではなかなか追いつかず、９対 11 と２点リードされたまま終了。チームの雰囲気は最悪で、仲間割れが起こるほどでした。そんな時、監督の関係で応援にかけつけてきてくれていた豊田選手が僕達に問いかけた「みんなハンドボールやってて楽しい？」という言葉、その一言でみんなの気持ちが切りかわりました。後半、取って取られての苦しい状態がラスト数分まで続きましたが、２点差でリードしていた僕達は最後まで粘り強く守り抜き、ついに優勝する事ができました。

全国制覇できたのも、斉藤先生との出会いや仲間達との出会い、色々な人達の協力のおかげだととても感謝しています。３年間このチームで本気でハンドボールを教わる事ができて本当に幸せです。これからはこの学んだことを色々な場面で役立てていけたらいいと思います。

全国制覇して

ハンドボール部ゴールキーパー　加藤 芳規

全国大会で二度も優勝できた事に感激しています。そして、ハンドボールについて何も知らない僕達にハンドボールを一から教えてくれた先生、応援してくれた人達、真剣に戦ってくれた他校の選手たちに感謝しています。

吉川中央中は過去に何度か全国大会に出場した事はあるようですが、決してハンドの名門校と言うわけではありません。その証拠に僕達が２年生の時には男子部員は８名しかいませんでした。先輩も後輩もいない２年生８名だけでした。それはそれで、上級生にも下級生にも気をつかわずに練習だけに集中できてよかったと思っています。集中しすぎて意見の食い違いが起こることも何度もありましたが、今となってはみんな良い思い出になっています。僕達が３年生になると新入部員が９名も入ってきてくれました。これで、中央中のハンド部が続くと思うと嬉しく思いました。春の全国大会とは違い、夏の全国大会は後輩とも一緒でした。しかも、県の代表だけではなく、関東の代表という事で大会に来ていない選手達の想いも背負って戦うわけです。精一杯戦わなければ、全国大会に来たくても来られなかった選手達に申し訳ない、そんな気持ちを持ちながら試合に臨みました。それで全国制覇できたのでとても嬉しい気持ちでいっぱいでした。これまで戦いを一緒にして来た中央中のハンドメンバーは皆最高な仲間達でした。なので、ハンドボール部に入部して今でも良かったと思っています。

女子優勝校　東久留米市立西中学校

三連覇を達成して

ハンドボール部顧問　尾石 智洋

この度は、第 36 回全国中学校ハンドボール大会に出場でき、更に優勝することができ大変嬉しく思っています。我が東久留米西中にとっては、大会「三連覇」がかかってるプレッシャーは多少ありました。しかし、春中で優勝こそできましたが、沢山の課題が見つかり、今回のチームでどれだけのことができるのか、自分たちとの戦いを４月から約半年頑張って来ました。フットワークの見直し、ジャンプ力向上のトレーニング、戦術面での改善、基本的な生活習慣の確認等々。なので、あっという間に夏がやってきました。都大会から気合いを十分に入れ、今までの成果を発揮できるよう取り組んできました。その結果、試合を重ねるごとに向上心を養うことができました。

全国大会では、１回戦、小松南部中（石川県）良い緊張感の中突破しました。２回戦、岐陽中（山口県）7mTC までいく接戦を勝たせてもらいました。準決勝、東陵中（愛知県）２回戦の反省点を修正でき全員全力で勝負できました。決勝、大住中（京都府）すばらしいスピードとシュート力のあるチームでした。とにかく全員必死に走るように指示を出していました。第２延長まで行く大接戦を勝たせていただきました。最後まであきらめなかった選手たちを誇りに思いました。

前人未踏の「三連覇」ということが、クローズアップされますが、毎年代わる選手たちにとっては連覇ということより、自分たちの代で勝てた感動が一番のようです（当然ですね！）。ただ、今まで培ってきた先輩たちの努力、伝統の上に今のチームがあることを忘れないでほしいと思います。

そして、保護者方々、地域の方々、種市校長先生をはじめ学校関係者の方々、東京都ハンドボール関係者の方々、様々な応援のなか頑張ることができました。感謝しています。（田中先生やりました！　澤田さんありがとうございました！　田坂、知名、津島、前田、久野、伊藤、長谷川、ちさお君他にも沢山のみんな、お疲れ様！）

また、福島県の大会関係者の方々には、大会前から親身に受け入れていただき、大変お世話になりました。ありがとうございました。福島県の組織力の素晴らしさを感じました。

私自身これからも、日々努力をし、楽しいハンドボールができたらと思っています。最後に、家にいる生まれたての長男と『勝利の女神たち』に感謝します。

戦　評

【男子】

▼準決勝

吉川中央（埼玉）　32（8－9、24－14）23　けやき台（茨城）

前半、吉川中央はゴールキーパー①加藤を中心に堅いディフェンスを見せ、3対0とけやき台を引き離す。しかし、けやき台は中盤少しずつリズムを取り戻し、一進一退の攻防が続いた。終盤けやき台のゴールキーパー①宮川のファインセーブにも助けられ、前半は9対8とけやき台の1点リードで折り返す。

後半は、前半の展開とは一転し互いに点の取り合いとなった。ゲームが動いたのは中盤、けやき台が3－2－1ディフェンスで勝負をかけるが、吉川中央はひるむことなく冷静に点を重ねていく。けやき台はディフェンスの乱れからリズムを崩し、次第に両者の点差は開いていった。終盤、けやき台はマンツーマン・ディフェンスで必死の守りを見せるが、吉川中央の勢いを止めることができず、最終的に32対23の大差で吉川中央中がけやき台中を破り決勝に駒を進めた。

手代木（茨城）　31（14－11、17－15）26　月輪（京都）

月輪はゴールキーパー⑫牧野を中心とした堅いディフェンス、手代木はフローター陣を中心とした爆発的な攻撃力が注目のこの試合。先制は月輪③濱原のポストシュートによる得点。手代木も⑭福田のミドルシュートで応戦。13分まで両チーム互角の展開。14分過ぎから、手代木⑩手塚の高い打点からのロングシュートで3連続得点、さらに⑭福田の速攻スタンディングシュートでさらに3点を追加し、リードを5点とする。20分過ぎ、再び両者一歩も譲らない展開に。月輪⑤松山の2連続得点で差を詰めたが、14対11と手代木の3点リードで前半を終えた。

後半は、月輪⑦長谷川のポストシュートで先制。序盤は両チーム、スピード感ある好プレーを展開。7分過ぎに手代木①阪口が好セーブを連発。そこからの二次速攻を立て続けにゴールに結びつけ、9点差とする。月輪も13分過ぎに手代木に退場者が出たところでポストを巧みに使い、3連続得点。さらに16分に手代木に退場者が出て差を詰めていたいところだったが、ＧＫ①阪口の好セーブやＤＦに阻まれ、差を詰めきれなかった。結局、6点差で手代木中が勝利し、決勝へと駒を進めた。両チームの積極的でスピード感あふれる攻防は目を見張るものがあった。

▼決勝

吉川中央　24（9－11、15－11）22　手代木

開始1分過ぎ手代木⑪安達のポストシュートが決まると、⑭福田の技ありのステップシュートで得点を重ねる。さらに①阪口のキーパースローがゴールするなど手代木は4連続得点し、4対0とリードする。5分、吉川中央がタイムアウト。その後、流れを変えるように吉川中央⑤後藤がポストシュートを決め、初得点。その後は両チームとも一進一退の攻防を繰り広げるが、9分、吉川中央⑦越田のディフェンスの間を見事についたミドルシュートが決まると、③染谷、⑥鈴木が連続得点して吉川中央が追い上げていく。しかし、12分から手代木⑭福田、⑩手塚が3連続得点して再び点差を広げる。22分、吉川中央⑥鈴木、⑤後藤が得点し追い上げるが、11対9と手代木中の2点リードで前半を終了した。

後半開始早々、吉川中央⑦越田、④大村が連続得点、また①加藤のファインセーブによって同点に追いつく。しかし、4分吉川中央に退場者が出たスキを逃さず、手代木が⑩手塚、⑭福田の得点で再びリードを広げる。しかし、6分、吉川中央③染谷のロングシュートをきっかけに追い上げ、7分に同点、9分に逆転し、逆に2点のリードを奪った。15分、手代木のタイムアウト直後、手代木⑨酒井、⑭福田、⑮小原が得点を重ねる。また、⑬久米をトップとした5－1ディフェンスに切り替えたことにより流れが変わり、22分に再び同点となる。しかし、吉川中央は手代木⑭福田にマンツーマンをさせ攻撃を封じようと試みる。これをきっかけに、吉川中央④大村、⑦越田のロングシュートが見事に決まり、2点差で吉川中央中が優勝した。

豊富な運動量と多彩なシュートを持つ手代木中と、高さを生かした堅牢な守りを見せた吉川中央中は、共に高いレベルのプレーを見せ、まさしく決勝戦にふさわしい試合となった。

【女子】

▼準決勝

東久留米西（東京）　26（13－4、13－11）15　東陵（愛知）

立ち上がり20秒、東陵④石川のサイドからのパスを②友清がスカイプレーであわせて先制、高い技術を見せつけるが、東久留米西⑮笹木がすかさずサイドシュート、速攻を決めて逆転。その後も高い機動力を生かして次々に得点を重ね、一気にリードを奪う。東陵も④石川のポストシュートや⑨加藤のカットインなどで得点するが、なかなか点差を縮められず、13対4と東久留米西中が大きくリードして前半を終了した。

後半、東陵が先制、⑦久保敷の速攻やＧＫ⑫高倉のファイ

ンセーブなどで勢いに乗りたいが、その後はやはり東久留米西の高い4－2ディフェンスを崩すことができず、逆に得点を許してしまう。終了間際にも東陵は④石川のミドルシュートなどで追い上げを見せるが、流れを作った相手を止めることができず、終始リードを保った東久留米西中が勝利、決勝進出を果たした。

東久留米西中の高い個人技とシュートテクニック、東陵中の最後まで動きの止まらないエネルギッシュな攻防が光ったゲームであった。

大住（京都） 34（17－7、17－9）16 郡山第一（福島）

大住⑥櫻井が46秒にサイドシュートを決め、先制する。さらに、⑥櫻井がサイドから2連続得点でリードを広げる。4分頃、今度は郡山第一②井上がロングシュートで1点を返し、⑦和泉のポストシュートも決まるものの、大住⑩太刀川のカットインからの速攻、⑪吉江のシュートなどで点差は開いていく。17分頃、郡山第一がフリースローによる②井上からのコンビネーションで⑥皿井が得点、また20分頃、⑥皿井と⑤矢吹とのサイドとポストのクロスからの技ありのプレーで得点するなど追いすがるものの、大住中の堅いディフェンスによって点差は縮まらず、大住中が10点リードで前半戦終了となる。

後半、郡山第一⑥皿井が50秒に得点してスタート。その後、大住④川下が2本連続7mスローを決める。6分頃、郡山第一中に退場者が出てしまい、大住はその状況を見逃さず、④川下、⑩太刀川、⑪古江らが連続で得点し、点差を広げる。しかし、9分頃、今度は大住中に退場者が出ると、郡山第一⑤矢吹、④黒澤らが得点していき、また、①白石のナイスセーブも出て点差を縮める。その後、郡山第一は⑥皿井や⑧宗形が得点していくものの、大住も⑥櫻井、⑧田辺、⑪古江を中心に得点を重ね、34対16で大住中か勝利した。

両チームともオフェンス、ディフェンス両方でチームプレーが光り、見応えのある試合であった。

▼決勝

東久留米西 36（11－13、15－13、5－5、5－3）34 大住

前半の立ち上がりは、大住⑥櫻井が立て続けにサイドシュートを決めて先制。しかし、東久留米西も⑭千葉が素早く切り込んで1点目をもぎ取る。大住はマイボールになってからの早い切り替えを武器に速攻を仕掛けて更に得点していくが、東久留米西も勢いに乗せまいと果敢にＤＦの間を攻めて7ｍスローをもらい、③橋本が確実にシュートを決め、この後は一進一退の展開に。前半終了間際、大住⑥櫻井のサイドシュートや⑪古江の速攻などで連続得点をし、13対11と大住中リードで前半を折り返した。

後半も試合展開は変らずシーソーゲームが続く。終盤、大住は⑪古江の連続得点で3点リードを奪ったが、23分までに東久留米西が②足立、⑤徳水、③橋本の執念のゴールでついに同点に追いついた。24分、26対26の同点の場面で大住中が7ｍスローのチャンス。しかしこれを東久留米西ＧＫ①奥住がファインセーブ。この日最高のキーピングを見せる。試合はそのまま終了し、延長戦へ持ち越された。

延長戦もやはり点差はつかず、時間だけが過ぎる。第一延長後半には東久留米西が⑥中田や⑮笠木のシュートで2点リードするも、大住中も同点に追いつく。さらに終了10秒前には7ｍスローのチャンスは得るも、このシュートは無情にも枠の外。決戦は第二延長に突入。休む間もなく始まった第二延長で、東久留米西中はやっと流れを作る。大住中の猛追を受けるも最後は東久留米西②足立が力を振り絞ったミドルシュートで今試合の最後の36点目をゲット。36対34で東久留米西中が勝利し、優勝を決めた。

東久留米西中が3連覇を達成したが、70分間の激闘で最後まで会場を沸かした両チームに大きな拍手が贈られた。

高松宮記念杯

第58回 全国高等学校選手権大会

平成19年度全国高等学校総合体育大会

男子：北陸高校は10年ぶり２度目の優勝
女子：府立洛北高校は３年連続６度目の優勝

最終順位

■男子		■女子	
優　勝	北陸高校（福井県）	優　勝	府立洛北高校（京都府）
準優勝	藤代紫水高校（茨城県）	準優勝	小松市立高校（石川）
第３位	小林工業高校（宮崎県）	第３位	宣真高校（大阪府）
第３位	不来方高校（岩手県）	第３位	夙川学院高校（兵庫県）

■総　評 ……………………………………… 佐賀県高等学校体育連盟ハンドボール専門部委員長　牟田 安典

高校生のスポーツの祭典「平成19年度全国高校総体」が佐賀県において開催されました。7月28日の総合開会式には、皇太子殿下のご臨席を賜り、オープニングにふさわしく高校生が主体となった式典が行われました。気温35度を越す猛暑の中、溌剌とした入場行進や佐賀県の高校生が創りあげたマーチングバンドやマスゲームが披露されました。

ハンドボール競技は、2市2町にまたがり、6競技会場で実施されたため競技会場が点在し、また、広域配宿となり選手・役員の皆様方にご迷惑をおかけいたしましたが、試合そのものは選手・監督・役員のご協力により、無事男女決勝戦まで94試合が終了しました。途中、台風5号（8月2日昼過ぎから深夜）の影響で競技日程・時間等を協議する場面がありましたが、予定どおりの実施が決定し、それによる混乱はありませんでした。

さて試合ですが、男子は北陸高校（福井県）が10年ぶり2度目の優勝を飾りました。春に行われた選抜大会（徳島県）の決勝戦と同じカードで、藤代紫水高校（茨城県）が相手でした。前半戦は両者互角の展開で15対15の同点で折り返し、後半戦は北陸高校が藤代紫水エース（ポイントゲッター）の信太選手にマンツーマンディフェンスをしくと、攻撃のリズムが崩れ北陸ペースとなり、成田・杉本選手の活躍により後半15分過ぎには8点差までリードを広げました。藤城紫水も反撃しますが今一歩及ばず、選抜大会の雪辱を果たし、北陸高校が頂点に立ちました。ベスト4に残った小林工業（宮崎県）不来方（岩手県）も善戦しましたが、北陸・藤代紫水両チームの力量が群を抜いていたように感じられました。

女子は、春の選抜大会（徳島県）のベスト4チームが相次いで敗れていく中、洛北高校（京都府）が順当に勝ち上がって3年連続6度目の優勝という偉業を達成しました。決勝戦は前半戦20分までは、互角の戦いを見せましたが、洛北の堅いディフェンスを小松市立（石川県）が攻め倦んで得点できず、田邊・乾・塩見選手の得点により点差を広げ、終始優位な試合展開で優勝を飾りました。宣真（大阪府）、夙川学院（兵庫県）、横浜南陵（神奈川県）、陽明（沖縄県）の健闘が光りましたが、準々決勝・準決勝で僅差により敗れ去りました。

地元佐賀県勢は、女子の神埼清明（佐賀県代表）はベスト16に留まりました。3回戦では清水商業（静岡県）に1点差で敗れ、涙をのみ、あと一歩のところで目標のベスト8には手が届きませんでした。佐賀女子（開催地）も1回戦で1点差で敗れました。男子はともに初出場の東明館（佐賀県）、佐賀清和（開催地）も、最後まであきらめずに挑戦者として試合に臨みましたが、善戦むなしく2回戦で姿を消しました。

来年の全国総体（彩夏到来08埼玉総体）は埼玉県で開催されます。今年にも増した熱戦を期待します。

また、開・閉会式には、（財）日本ハンドボール協会の渡邊会長、川上専務理事にもご出席いただきありがとうございました。

最後に、8月3日、本大会は無事終了いたしました。本大会を支えていただきました実行委員会・役員・補助員・ハンドボール関係者・保護者・選手・監督の皆様方に心より感謝申し上げ、総評といたします。

男子優勝チームの 声　北陸高等学校（福井県）

写真提供・スポーツイベント社

佐賀インターハイを振り返って

北陸高校ハンドボール部監督　志々場 修二

まずは平成19年度全国高等学校総合体育大会におきまして、10年ぶり２回目の優勝ができましたことに対し、日頃よりご支援ご協力いただいております学校関係者の皆様、県体育協会、県高体連の皆様、ご父兄、ＯＢの皆様に深くお礼申し上げます。有難うございました。

写真提供・スポーツイベント社

春の全国選抜大会決勝では、藤代紫水高校に１点差で敗れ、選手全員が悔し涙を流しておりました。大会初戦で主力選手にケガ人を出してしまったこと、また、チームとしても力を出し切れずに不本意な内容で決勝戦が終わったことを、私自身も選手同様悔やんでおりました。しかし、選抜大会終了後は、すぐに県外遠征に出かけ、いろいろな高校、大学に胸を貸していただき、また、いろいろなご意見を伺いながら、インターハイに向け、新たにレベルアップを図ることができました。

本大会では、初戦から、持ち味であるアグレッシブなディフェンスと、スピードあるオフェンスを十二分に発揮し、再度、藤代紫水高校と決勝戦を戦うことができました。決勝戦では、お互いの持ち味を十分に発揮し、パワフルでスピードのある攻撃で一進一退の展開となりましたが、後半に入り、まるで春の悔しい思いをぶつけるかのように、粘り強く守りきり、最後まで走りきって、念願の２回目の日本一を手にすることができました。

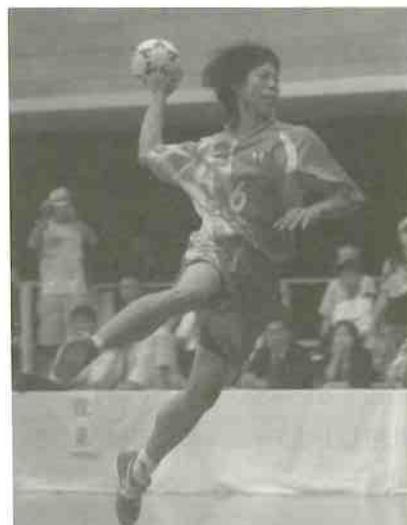
最後になりましたが、今大会で運営にあたられた大会関係者の皆様、宿泊でお世話になった皆様、会場で応援してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。

女子優勝チームの 声 府立洛北高等学校（京都府）

3連覇を達成して

府立洛北高校ハンドボール部主将　田邉 夕貴

この度、私たちはインターハイで優勝し、3連覇を達成することができました。これも楠本先生をはじめ、私たちを指導してくださった方々や、支えてくださった多くの方々のおかげであると感謝しています。本当にありがとうございました。

写真提供・スポーツイベント社

私たちのスタートは、春の選抜大会近畿予選での敗北でした。この時私たちは、先輩方から受け継いだインターハイ三連覇という目標さえも、重く感じられました。

そんな私たちに楠本先生は、「コミュニケーション能力を高め、自分たちのハンドボールをすることが大切だ。結果は後からついてくる。」と、指導してくださいました。選抜大会で優勝させていただいてからも、気持ちを緩めることなく日々の練習に取り組むことができたのは、「自分たちのハンドボール」という目標があったからです。相手のディフェンスに対応し、瞬間の判断でかけひきをすること、恵まれた身長を生かして堅く守り速攻に持ち込むこと、学年に関係なく声をかけ合いプレーすること等、「自分たちのハンドボール」は、徐々に形となっていきました。

インターハイに入ってからは、地元の方々の暖かさにも励まされ、気持ち良くプレーすることができました。遠い佐賀の地に足を運んでくださった校長先生をはじめ、学校関係者の方々やＯＧとその保護者の方々、そしてチームの保護者の方々の大きな歓声の中で戦い、優勝できたことをとても幸せに思います。一生忘れられない思い出になりました。

次の国体でも、更に「自分たちのハンドボール」を磨き、優勝を目指します。

ありがとうございました。

戦評

男子

▼準決勝

藤代紫水（茨城）　43（21 − 9、22 − 15）24　不来方（岩手）

試合開始直後から藤代紫水の加藤の速攻や信太のロングシュートで得点を重ね、10分過ぎからは7連続得点を奪うなど、終始優位に試合を進め、後半もディフェンスからの速攻で徐々にリードを広げ圧勝した。不来方も谷藤・佐々木喬らを中心に反撃するが、藤代紫水の安定したディフェンスを崩せず、また、流れを変えられずに終了した。

北陸（福井）　38（21 ― 12、17 ― 13）25　小林工業（宮崎）

小林工業は6－0ディフェンス、北陸は5－1ディフェンスで応戦。小林工業は早いボール回しから宮島・津久田・西川を中心に得点。一方、北陸は杉本・児玉・加藤・小川を中心に得点し、前半12対21で終了。前半の残り6分間に小林工業に得点がなかったのが惜しまれる。

後半も多彩な攻撃で加点する北陸に比べ、連続得点ができない小林工業との明暗が分かれた。北陸のディフェンスの堅さ、GK加藤悟の好セーブが特筆される。加えて、両チームとも最後の最後まで力を抜くことなく、全力でプレーする姿勢に賞賛の拍手を送りたい。

▼決勝

北陸（福井）　38（15 ― 15、23 ― 17）32　藤代紫水（茨城）

前半は、実力伯仲で1点を争うシーソーゲームとなり15対15の同点で終了。後半、北陸が藤代紫水の信太にマンツーマンにつくと攻撃のリズムが崩れ、北陸GK加藤の好守で北陸ペースとなり、少しずつ点差を広げ終了した。前半は、藤代紫水の寺田のカットインプレーやパスカットからの速攻で得点するが、北陸の攻撃に対し7mスローを続けて与え、それを杉本が確実に得点し一進一退の攻防が続く。お互いに、ディフェンスからの速攻を得意とするチームで得点を重ね、前半終了。

写真提供・スポーツイベント社

後半開始は、北陸の杉本のロングシュートでリードするが、藤代紫水の信太もロングシュートで応戦する。後半5分過ぎから信太にマンツーマンディフェンスにつき、藤代紫水のリズムが崩れ、北陸が流れをつかみ、サイド・ポストシュートで得点を重ねていった。藤代紫水も反撃するが、追いつくことはできず北陸が勝利した。決勝戦にふさわしい気迫に満ちた好ゲームであった。

女子

▼準決勝

洛北（京都）　22（12 − 11、10 − 9）20　宣真（大阪）

試合は洛北の流れで進み、宣真が追いかける展開であった。後半開始直後、宣真の勝連のスカイプレーで同点とするが、その後洛北、乾のロングシュート、田邉のサイドシュート・速攻で4点連取し試合を優位に進めた。宣真は淺谷のロングシュートで応戦するが流れをつかみかけたところでミスがあり、追いつくことが出来なかった。

宣真は、前半、辻珠美の7得点の活躍があり、一進一退の攻防が続いたが、後半8分までの洛北4点連取がひびき、追いすがる宣真の反撃を振り切って勝利した。

小松市立（石川）　33（18 − 16、15 − 13）29　夙川学院（兵庫）

夙川学院のスローオフで始まるが、先取点は小松市立。両チーム6－0ディフェンスで防御。夙川学院は速い攻撃に加え、岡田のロングシュートで加点するパターン。一方、小松市立は藤井・中西のワンフェイントからのロングシュートが得点源となる。18対16小松リードで前半終了。

後半、夙川学院も3回同点とし、追い上げムードとなるが逆転するまでには至らず小松市立が勝利。夙川学院の岡田13得点、小松市立の藤井12得点両チームのエースの高得点が目立った試合だった。

▼決勝

洛北（京都）　38（19 − 10、19 − 11）21　小松市立（石川）

開始から2点連取した洛北が幸先の良いスタート。一方、小松市立は藤井・加須屋で応戦、前半18分には同点に追いつく。その後の12分間は、洛北の堅いディフェンスを攻めきれず、わずか2得点。洛北は、塩見のポストプレー、乾のロングシュート土井・田邉の速攻等で着実に得点し、19対10の洛北リードで前半終了。

後半、小松市立は洛北のディフェンスを崩すことができず、開始5分間は無得点。リズムに乗ってきた洛北は、堅いディフェンスから多彩な攻撃で得点を重ね、3年連続優勝の偉業を成し遂げた。最後まで高校生らしく真剣にプレーした両校に賞賛の拍手を送りたい。

写真提供・スポーツイベント社

第2回
女子ユース
アジア選手権
(WC2008 予選)

■第2回アジア女子U18選手権大会に参加して

団長　高田 日呂美

第2回アジア女子U18選手権大会は、2007年7月23日から28日まで台湾の台北県立板橋体育館で開催された。参加国は日本、韓国、チャイニーズホンコン、カタール、チャイニーズタイペイの5ヶ国・地域である。試合結果は3勝1敗で2位となり、来年実施される女子U18世界選手権への出場権を獲得した。試合会場の板橋体育館は台北市の南西に隣接する板橋市の中央にあり、陸上競技場などの体育施設の集まる運動公園の一角にある。

試合前日のテクニカルミーティングで参加国のうちカタールが未到着のため、日程を一部変更し第1日と第2日を入れ替えることが伝えられた。このため第1試合が日本対韓国となったが、以後は予定通りの日程で実施された。ここでは対韓国戦と対チャイニーズタイペイ戦を振り返りながら課題を見ていきたい。

韓国戦は、試合開始直後から得点を重ね、常に日本がリードして前半を18対16で終了した。後半に入り15分過ぎに同点とされてから急に得点が取れなくなり、相手のポスト、サイドからの得点が決まり出し速攻も加わって逆転された。それ以後は差が開くばかりで最後は8点差がついた。後半の同点にされてからの場面では、チームとしての攻守の未熟さと一人ひとりの精神的な弱さが出た。オフェンスでは後半になってから攻めあぐみ、シュートミスやパスミスが目立った。ディフェンスでは前半に相手が攻めあぐむ場面もあったが、全体としてはポスト、サイドの守りに課題を残すなど相手との間合いに甘さが見られ、GKのサイドシュートの守りにも課題が残った。チャイニーズタイペイ戦は、前半は常に相手の2～3点リードを追いかける展開となった。相手ディフェンスの強い当たりに当惑し、セットでの走りが止まり思うように得点が取れなかった。後半に入り15分過ぎに同点に追いついたが2点差をつけると同点に追いつかれるという展開となり一進一退を繰り返した。最終場面では双方の点の取り合いとなり同点、逆転と目まぐるしい展開となったが辛うじて1点差で逃げ切った。この試合でもチームとしてのまとまりと未熟さに多くの課題を見ることができたが、1点差を争う厳しい試合に勝利を収めることができたのは大きな成果であった。

武庫川女子大学体育館における3回の強化合宿では、日に日に上達する選手をみることができたし、台湾での試合を重ねる毎に成長する姿があった。来年の女子U18世界選手権までには新しいチームとして更なる進化を期待する。

大会の運営では、カタールの参加が遅れるという事態に対しても大きなトラブルが生じることもなくスムーズに行われた。ただ、午後の急な雨では蒲鉾型の屋根からコートに雨漏りがしたのには驚かされた。宿舎のフォーポイントホテルは良好であったが、宿泊費7泊のところを8日分大会本部から初めに請求されたが、後日訂正された。審判でも極端に公平を欠くということもなくトラブルはなかった。

■アジアユース選手権を終えて

キャプテン　梁元 友恵

7月23日から28日に台湾でアジアユース選手権が行われました。

参加国は日本、韓国、チャイニーズホンコン、地元のチャイニーズタイペイの5ヶ国・地域です。その中でも強豪といわれ続けている韓国と初戦で試合することになり、「打倒韓国」という強い気持ちで挑みました。

しかし、8点差という大差をつけられる結果となり、日本代表としてこれ以上負けられないというプレッシャーと負けたくないという気持ちで残りの3試合を戦いました。

最終戦は地元チャイニーズタイペイ戦でした。地元ということもあり、会場中が相手の応援をする中、1点を競う緊迫した試合で相手チームのムードを押し返し1点差で勝利することができました。

この1勝はチームにも、自分にも大きな励みとなり、来年の世界選手権に向け、自分の課題とする技術的・精神的により向上するように努力し、世界という大きな舞台で日本代表としてプレーできるようにし、チームとしての目標である「打倒韓国」を達成できるようになりたいと思います。

試合結果

■第1日目：7月23日（月）

日　本　28（18－16、10－20）36　韓　国

〔戦評〕カタールの到着が遅れ、急遽1日目と2日目のスケジュールが変更となり、初戦でいきなり宿敵韓国との戦いになった。お互いに硬さの見られる立ち上がりであったが、攻防のシステムがうまく機能し、安倍のディスタンス、角南（唯）の速攻、角南（涼）のポストで先にペースを掴んだ。韓国の長身左腕ユの強烈なロングシュートを軸に追い上げられ一進一退の展開となる。相手の退場機を活かし3連取し、森の多彩なプレーや梁元の速攻、GK高木の好セーブもあり、18対16で前半を折り返す。

後半も互角の攻防で始まったが、8分過ぎ日本の退場を機に3連取されペースをつかまれる。さらに前半に複数の負傷者が出た影響により残り選手に疲れが見え始めた。残り12分同点から連続でノーマークシュートを外し、それを走られリードを広げられてしまった。前半から非常にうまくシステムが機能していただけに、悔やまれる敗戦となった。

〔得点〕　森8、安倍6、角南（涼）5、梁元3、角南（唯）、松村、川俣2

チャイニーズタイペイ　32（18－5、14－6）11　チャイニーズホンコン

■第2日目：7月24日（火）

韓　国　45（18－5、27－4）9　チャイニーズホンコン

日　本　41（19－2、22－3）5　カタール

〔戦評〕未知数のカタールとの戦いであったが、GK加陽を中心に安定したDFから速攻を主体に松村や錦織が得点を重ねていった。後半に入っても次のゲームを意識し、DFシステムを変化させながら全員得点で圧勝した。

〔得点〕　角南（涼）、松村7、錦織6、秋田5、森4、加藤3、舩留、柴崎、川俣2、角南（唯）、安倍、鬼沢1

■第3日目：7月25日（水）

チャイニーズタイペイ　44（22－2、22－5）7　カタール

■第4日目：7月26日（木）

日　本　33（18－2、15－5）7　チャイニーズホンコン

〔戦評〕体格に勝る日本は、川俣、安倍の安定したDFでロングシュートを打たせ松村、角南（唯）ら両サイド陣が速攻を重ね、序盤から点差を広げていった。

後半中盤、若干集中力が欠け、ノーマークシュートミスやテクニカルミスが続いた。終盤、OFシステムおよび速攻システムの確認をし、角南（涼）のポストや加須屋のカットインにより得点を重ねた。今日の試合の勝利により、この時点で世界選手権の切符を手にし、明日の最終チャイニーズタイペイ戦への弾みをつけた。

〔得点〕　角南（涼）、松村、安倍6、加須屋4、角南（唯）、川俣、森3、錦織2

韓　国　60（29－1、31－0）1　カタール

■第5日目：7月27日（金）

日　本　25（10－13、15－11）24　チャイニーズタイペイ

〔戦評〕ホーム・チャイニーズタイペイの大歓声の中、序盤からU－20のアジア選手権にも参加した左バックプレーヤーのチュウのパワフルなシュートにディフェンスが乱れ、さらに右バックプレーヤーウーの左腕からの高打点シュートでリードを広げられた。加須屋の切れのあるフェイントプレーで、数的優位な状況が何度もあったが、うまく得点できずフラストレーションがたまる展開となった。ハーフタイムで組織で攻めること、DFのシステムの再確認、3次FBのシステムの意思統一を徹底し後半に臨んだ。

一進一退の展開から、後半10分過ぎに相手バックプレーヤーに対応し始めたDFから角南（唯）、角南（涼）の速攻、川俣のブレイクスルーで得点を重ね一気に逆転した。終盤勝負を決める3点差にするシュートをことごとくはずし、観客の大歓声に後押されたチャイニーズタイペイの追い上げにあい、1点を争う展開となった。最後の勝負どころで森の強烈なステップシュートで突き放し、GK加陽がノーマークシュートをセーブしノータイムとなった。チームは一試合ごとに成長し、また個々の課題も発見できた。今後これらを修正し、来年の世界選手権に臨みたい。

〔得点〕　角南（唯）6、角南（涼）、川俣、森5、松村2、加須屋、安倍1

■最終日：7月28日（土）

韓　国　34（15－12、19－9）21　チャイニーズタイペイ

チャイニーズホンコン　20（12－4、8－4）8　カタール

●最終順位

1位：韓国
2位：日本
3位：チャイニーズタイペイ
4位：チャイニーズホンコン
5位：カタール

＊上位3ヶ国は、2008年女子ユース世界選手権への出場資格を獲得

平成19年度 第15回全日本ハンドボール氷見大会を終えて

（財）日本ハンドボール協会マスターズ委員会委員長　小山 哲央

平成19年度第15回全日本マスターズハンドボールは、富山県ハンドボール協会並びに氷見市ハンドボール協会のご協力を頂きまして、富山県氷見市にて開催いたしました。富山県協会金原至会長、徳前啓人副会長を始めといたしまして富山県及び氷見市の多くの役員の方々には大変お世話になりました。衷心より感謝申し上げます。

今年の大会の纏めといたしまして２つの特筆すべき事項に絞り記述させて頂きます。

第１点は全日本マスターズの大会期間であります７月27日（金）～７月29日（日）に４つの全国大会が集中し、重複したことです。花巻市の全日本実業団選手権大会、京田辺市の第20回全国小学生記念大会、佐賀県内で開催されましたインターハイ、そしてこの全日本マスターズです。更に悪いことに参議院選挙の投票日が予定より１週間ずれ完全にバッティングしてしまいました。

１月の往復はがきによる過去に参加経験のあるチームへの大会参加調査では40以上のチームが参加を予定しているとの返事を頂いておりましたので、安心をしておりましたが、これだけの全国大会が重複するとは予想だにしておりませんでした。マスターズ参加者の年齢から高校生や小学生をお持ちの方が多く、そのことによる参加・不参加への影響を心配しました。

ところが蓋を開けますと、第４回となります11人制大会は５チーム、第15回７人制大会は男女合わせて合計51チームと先の心配を吹き飛ばすかのように、両大会の合計が56チームとなりました。これは昨年の豊橋大会を上回る最多となります。しかし､チーム構成の段階からから見ますと、最後の最後までチームメンバーが決まらずに変更を繰り返したチームは数多くみられました。参加チームの責任者にはその責務を全うして下さいました事に対し、またその遣り取りに丁寧にお返事して下さいました富山県協会事務局長山本幹雄氏に対しまして感謝を申し上げます。有難うございました。

また、この参加した56チーム以外にも全日本実業団選手権大会とバッティングした為に、岩手県から男女で少なくとも３チームが出場できませんでした。また、佐賀インターハイのお手伝いで女子の常連チームの甲斐クラブが同じく不参加となりました。更にWAKUNAGA、三景、オールド愛媛、蒲郡クラブ、石川オールスターズは、申し込みの直前や申し込み後に出場をキャンセルせざるを得ませんでした。ですから４つの全国大会と参議員選挙の投票日が重複していなければ60チームを優に超える大会となっており、氷見市協会に用意して頂きました５コートでは１～２コート不足する事態にもなり得た大会でした。

来年度からは事前の話し合いを十分持ち、大会の重複は避けなければなりません。と同時に用意するコート数或いは大会期間を増やす必要も考慮しなければなりません。

第２点は第４回11人制大会に５チームがエントリーして下さったことです。これまでは葵クラブ・LBCアルバトロス連合、HC名古屋ATF＋中部ドリームズの２チームを中心に実施してきました。今年はまず三六（みろく）会が参加を申し出て下さいました。昭和36年日本体育大学卒業のハンドボーラーを中心にしたチームです。氷見クラブシニヤは金原至富山県協会会長の鶴の一声でチームが結成されました。どちらも11人制大会のみの出場でしたが、今後の連続出場を期待したいところです。

東京クラブ連盟は昨年責任者の安藤毅氏が個人で初出場されましたが、今年はチームで初出場を果たして下さいました。大会は初めて全チームが２試合行なえるように組合せを行い、トーナメント方式を採用することができました。第一試合の三六会と葵クラブ・LBCアルバトロス連合では徳前啓人氏のスローオフの笛に合わせて富山県協会参与旅逸郎氏が第一投を投げるという始球式方式でゲームを開始しました。

第４回を迎えることで少しずつですが11人制未経験のマスターズ世代にも楽しさが浸透し始めたようです。笑いの中にも勝敗をこだわるような雰囲気を感じ取ることができました。結果は東京クラブ連盟がHC名古屋ATF＋中部ドリームズを破り、初優勝を飾りました。来年は更にチーム数が増加し、多くの人達と交流できることを期待します。

今年も70歳以上の役員および選手が18名参加して下さいました。昨年の14名を上回り、大変にぎやかな

ハンドボールマスターズ大会

大会にして頂きました。最高齢は２年連続９度目の出場の愛知県協会前会長大田耕治選手が 76 歳、同じく２年連続出場の京都市協会の重鎮前田勝選手 75 歳。女子の最高年齢は 72 歳審愛玲さん。審さんは全日本教職員連盟常任理事の時代から連続参加です。つづいて、本大会の副会長金原至富山県協会会長、11 人制大会、７人制大会の両大会を熱心に観戦して頂きました。あゆみクラブ監督で元ジャスコの監督として活躍されました鈴木義男氏、九州ハンドボール界の重鎮池ノ上明造泉丘会監督、葵クラブ・LBC アルバトロスは河内鋭男 74 才を先頭に寺島潔、本田勝亮、山岸信久の４選手が第９回からの連続出場です。

三六会からは山田哲雄、青木崇、朝日敬三、宇田川清の４選手は初出場ではありましたが 11 人制大会を大いに盛り上げて下さいました。（財）日本ハンドボール協会特任副会長、竹野奉昭選手、竹野さんとは大学の同級生で共に全日本選手として後に全日本の指導者として活躍されました大阪協会顧問の東嘉伸選手。この両氏は選手・大会役員としてご多忙の３日間を過ごして頂きました。有難うございました。その他大阪協会参与の光島磯雄氏はカメラを持参し、氷見入りをして頂きました。更に 11 人制のご挨拶まで頂き恐縮いたしました。私の不注意で 70 歳以上の方が他にもお見えになっておられましたならばご容赦下さい。又来年も今年以上の役員選手のご参加を期待しております。

更には、56 チームが参加した７人制大会は昨年に引き続き、交流型（いつまでもプレーを続け、ゲームという緊張感を楽しむグループで、優勝などを求めない）と、順位決定型（ある程度高齢になっても「まだ出来る」という実感を楽しむグループで、順位を決めていく）に分かれ、出来るだけ試合数を確保する為に、リーグ戦方式・トーナメント方式を併用し、全ての参加チームが大会の２日間楽しめるように運営を図りました。順位決定型では、昨年度準優勝の「NISSHIN」が２日間５試合の熱戦を制し、見事優勝を飾りました。

最後にあたりまして、徒歩 10 分圏内に３会場５面の室内コートを持つ氷見市は「ハンドボールの町」、「ハンドボール王国」を名乗るに相応しい市だとつくづく感じました。この理想的なハンドボール環境を永年に渡って築かれた富山県協会金原会長を始め多くのハンドボール関係者に敬意を表します。「こういう環境で、毎年ハンドボールができたら良いのにね」という参加者の声を沢山耳にしましたことを大会報告の締めとさせて頂きます。

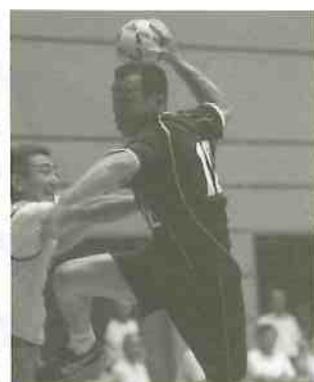
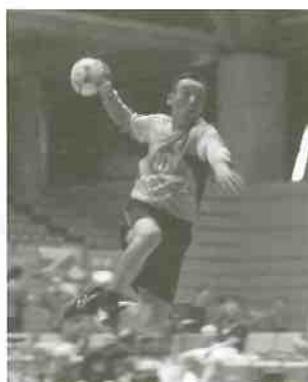
最　終　順　位

■男子（順位決定型）
優　勝：NISSHIN
準優勝：シルバースターズ
３　位：下松クラブアダルツ
４　位：GG'S

■女子（順位決定型）
優　勝：小松クラブ
準優勝：富山エンジェルス
３　位：風見鶏ファミリー
４　位：スズッキーズ
５　位：Fenice
６　位：マミーズ
７　位：徳山クラブ

～甲子園に燃えた！～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

今夏はことのほか猛暑だった。連日、気温が30度を超え、猛暑日、いや酷暑が続いた。その中で、スポーツ界は例年になく、熱く燃えた。

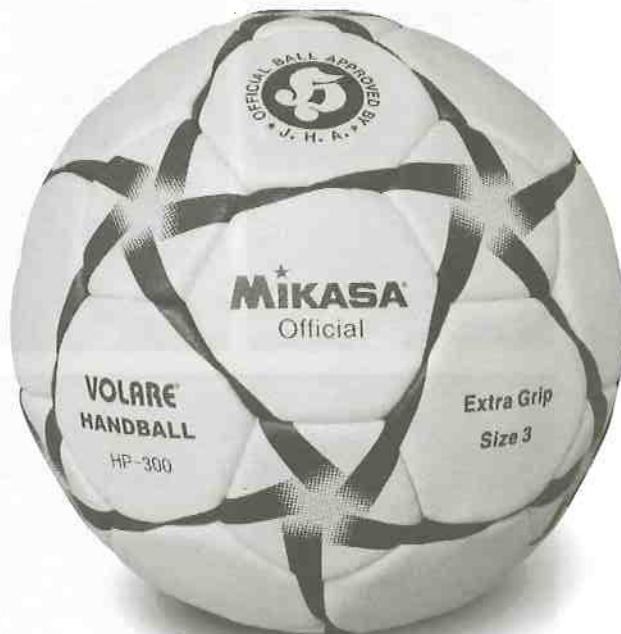
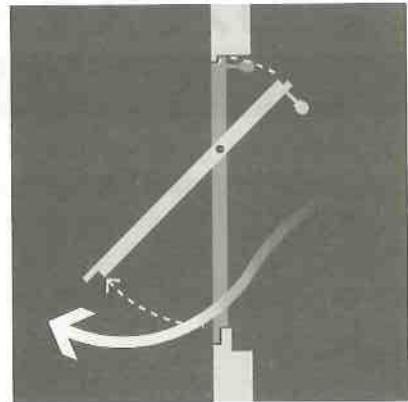
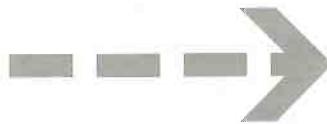
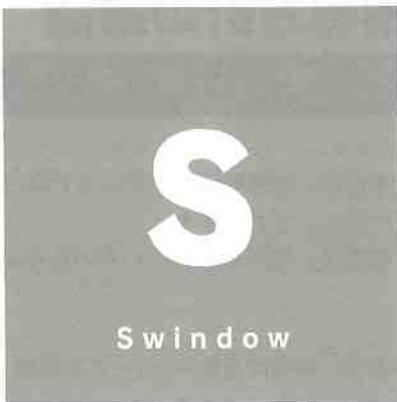
とりわけ楽しませてもらったのが、佐賀北の優勝で幕を閉じた甲子園だった。あの信じられないような決勝での大逆転ホームランは、感動、感激を通り越したほどであった。戦いを進めるごとに成長した姿は、ヤングパワーの怖さといったものさえ見せつけてくれた思いがしてならない。

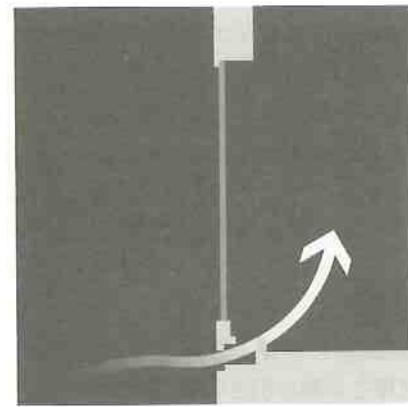
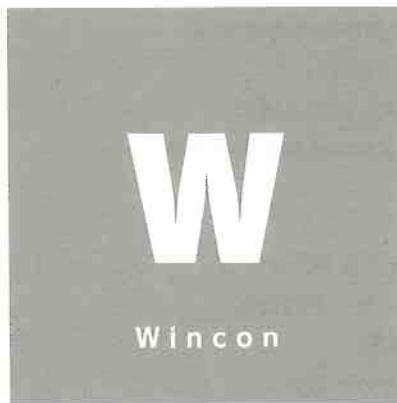
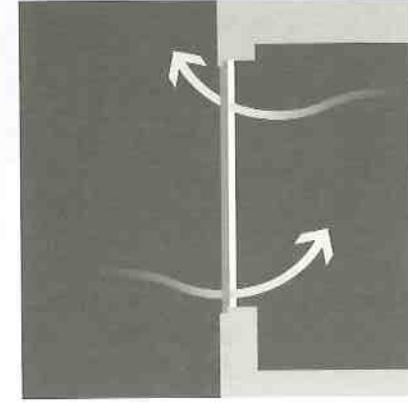
特に私が感心するのが、高校球児のたくましい精神力だ。あの大観衆の中、しかも決勝という異様な雰囲気の中で、どうして、あのような冷静沈着なプレーができるのかと言う点である。

9回、追いかける広陵がバントで一気に三塁まで走ったプレー。惜しくもアウトにはなったが、相手のスキを突いた判断は絶賛されていいと思う。しかし、守る野手が走塁を見逃がさず、すかさず送球した判断もまた絶賛されるべきである。大舞台で、しかも一瞬の判断が求められる場面でのプレー。日ごろからの練習の賜物だろう。

よく野球はベンチの采配が大きく左右されると言われる。だが、一瞬の判断はプレーする選手しか出来ないものである。「よく鍛えられている」では片づけられない個々の財産ではなかろうか。どうして観衆のどよめき、大応援合戦の最中に平常心でいられるのか。不思議なくらいである。

ハンドボールに限らずスポーツ全般に言えることだが、一つひとつのプレーは、選手個々が担っている。いかに個々を鍛え、伸ばすかだけでなく、チームの状況、個人の状況などに応じたプレーができる選手育成も指導者の大きな役割ではなかろうか。相手に飲まれない精神的なタフさも当然ながら求められるし、自分をしっかりと把握しているかも、重要なポイントだろう。

オリンピックをはじめ、世界の大舞台で勝負を挑むには、戦力だけでなく、そうしたプラス・アルファの見えない力も大きなウエートを占める。たくましい力と技、そして瞬時に戦いの全体像が把握でき、しかもプレーできる勝負へのアイデアが相まって、初めて成し遂げられるものではなかろうか。それには、いかに日ごろから展開や流れを予測した練習をこなすかだろう。個人戦術アップは永遠に続くテーマであろう。

呼吸する建築

Swindow●スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。

Wincon●ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。

Cavcon●キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化にあわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL (03) 5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

2007のスタートにあたり、一貫指導方針の確認

(財)日本ハンドボール協会強化委員　岡本　大

2000年からスタートしたNTS、本年度も5月26日・27日の二日間にわたり、NTSスタッフとナショナルスタッフチームのメンバーにより、一貫指導方針および内容の確認とその指導シミュレーションを行い、昨年度のセンタートレーニングにおいて実施されました基本方針を柱に各ブロックに伝達し、充実させていくことになっております。

本年度のNTSブロックトレーニングも、各開催地責任者、インストラクター、指導者、関係者各位のいろいろな面でのご協力のもと、北信越ブロックを皮切りに開催が進んでおります。

■ OF

＜ずれの創造＞

- ずれた位置への効率的なステップワーク
- 効率的なステップバックにより創造したずれからシュート
- 効果的なステップバックのため２度シュート

＜ずれの活用＞

- ずれた条件設定での１対１
- ずれた条件設定での２対２
- ステップバックにより創造したずれの中での１対１
- ステップバックにより創造したずれの中での２対２

■ DF

＜積極的DFの基礎獲得＞

- OFとの駆け引きの中でのフットワーク力構築
- DF２対３の中で、積極的なDFのベースを獲得
- マンツーマンDFにより、パスカット、ドリブルカットなどDFチャレンジとフットワークの基本を獲得

■ FB

＜速攻でのボール運びの基本養成＞

- 速攻でのドリブル
- 味方との協調したパス運び
- パス運びの中での前方状況の把握

■ GK

＜実践状況でのポジショニング＞

- バックプレーヤーとの対応
- ポストとの関係
- サイドまで含めた対応

平成19年度　第８回ナショナルトレーニングシステム(NTS)ブロックトレーニングは、若年層の運動能力の高い意欲のあるプレーヤーを早期に発掘し、将来、世界で活躍出来る可能性を持ったクリエイティブな日本代表プレーヤーに育成する。また統一された指導方法に基づいた一貫指導を実施し、指導者レベル向上を図る目的で、全国10のブロックで開催されます。上記の写真は、関東ブロック（８月25日・26日：神奈川県立体育センター）での開催の様子です。

平成19年度第10回ハンドボール研究集会
ボール運動教材としてのハンドボール　その10

標記研修会が、下記のように開催された。

■日　時：平成19年8月6日　12：30～17：00／同7日　9：00～12：30

■場　所：岡山県岡山市桃太郎アリーナ

■プログラム

第1日：8月6日（月）12：30～

○開会式　（1）角日本ハンドボール協会常務理事より挨拶
　　　　　（2）岡山県教育委員会保健体育課長　佐藤正敏氏より歓迎の挨拶
　　　　　（3）岡山県ハンドボール協会長　生本純一氏（代理森安県協会理事長）より挨拶

○諸連絡

○講義「小学校のハンドボールに期待すること」池田延行国士舘大学体育学部教授

①体育の授業は時代とともにある
②学習指導要領の変遷と体育の目指すところの比較（志水氏の岩波文庫資料より）
③体育における「よい授業」のスタンダードについて
④教育改革のリーダーシップ
⑤中央教育審議会の動向
⑥授業でのハンドボールの「＋」と「－」
⑦次回の学習指導要領改訂のポイント
⑧ビデオ提示：NHK「わくわく授業」から品川区立大井第一小学校橋本茂樹先生
⑨体育授業での学習過程の考え方

○研究・実践報告　大西武三（筑波大学）教授他5名の諸先生による報告があった。

○実技研修　講師　内田雄三氏（東京学芸大学附属世田谷小学校）「ボールゲームで『動ける』子どもを育てよう」
様々な鬼遊びの紹介とその実践。40名の受講参加者による実技研修を行った。1時間強のハードな実践であった。

第2日：8月7日（火）9：00～12：30

○小学生の授業「実技指導ハンドボール」
（1）高学年（6年生）を対象とした山本繁（岩手県盛岡市立大慈寺小学校）教諭の授業。
（2）中学年（3年生）を対象とした信原悦治（岡山県岡山市立西小学校）教諭の授業。

○講演「教育課程に関する動向とこれからの体育学習」渡邉　彰氏（文部科学省教科調査官）
概要　（1）学習指導要領の改訂過程：不断に見直していく必要がある。
　　　（2）平成19年3月、第4期中央教育審議会発足。
　　　（3）これからの体育授業

○閉会式　日本ハンドボール協会常務理事　角　紘昭氏より挨拶があった。
　　　　　岡山県ハンドボール協会副会長　後山富士水氏より挨拶があった。

スコアルーム ①

第15回全日本ハンドボールマスターズ大会

開催期日：2007年7月27日（金）～29日（日）
会　　場：富山県・氷見市ふれあいスポーツセンターほか

【男子】

《交流型》

▼あブロック

東京クラブ連盟Ｂ	14－10	ＨＣ名古屋ＡＴＦ(A)
鉄球会	12－5	葵・アルバトロスLBC(A)
ＨＣ名古屋ＡＴＦ(A)	12－3	秋川倶楽部
神楽坂シニア	9－5	秋川倶楽部
東京クラブ連盟Ｂ	17－7	葵・アルバトロスLBC(A)
鉄球会	18－5	神楽坂シニア
鉄球会	12－11	ＨＣ名古屋ＡＴＦ(A)
秋川倶楽部	7－5	葵・アルバトロスLBC(A)
東京クラブ連盟Ｂ	12－5	神楽坂シニア

▼いブロック

兵庫選抜	16－10	ＨＣ名古屋ＡＴＦ(B)
ＨＣ名古屋ＡＴＦ(B)	6－6	岐阜ＭＨＣ(A)
兵庫選抜	21－4	櫻ドール
豊橋マスターズ	19－15	泉丘会
泉丘会	14－11	櫻ドール
岐阜ＭＨＣ(A)	14－11	豊橋マスターズ
ＨＣ名古屋ＡＴＦ(B)	20－7	泉丘会
豊橋マスターズ	21－8	櫻ドール
兵庫選抜	15－8	岐阜ＭＨＣ(A)

▼うブロック

愛豊Ｚ	13－7	福井マスターズ
生駒オークス	10－8	小金クラブ
TeamＮＥＸＴ	17－14	東山クラブ
生駒オークス	14－8	愛豊Ｚ
東山クラブ	18－11	福井マスターズ
TeamＮＥＸＴ	12－9	小金クラブ
愛豊Ｚ	12－12	東山クラブ
生駒オークス	15－8	TeamＮＥＸＴ
福井マスターズ	15－12	小金クラブ

▼えブロック

葵・アルバトロスLBC(B)	15－12	46Ｇ会
コマツキャステックス	20－13	東京クラブ連盟Ａ
富山エンジェルス	16－8	Fenice
コマツキャステックス	11－8	46Ｇ会
風見鶏ファミリー	22－11	Fenice
葵・アルバトロスLBC(B)	16－15	知多クラブ
46Ｇ会	13－8	横浜平沼マスターズ
知多クラブ	19－9	東京クラブ連盟Ａ
葵・アルバトロスLBC(B)	13－13	コマツキャステックス

《競技型》

▼Aブロック

シルバースターズ	14－7	徳山クラブ
海自桜錨会	15－13	徳山クラブ
シルバースターズ	27－7	海自桜錨会

▼Bブロック

下松クラブアダルツ	16－11	ＡＺＺＵＲＲＯ
下松クラブアダルツ	18－11	待兼シニア
ＡＺＺＵＲＲＯ	20－11	待兼シニア

▼Cブロック

ＧＧ'Ｓ	27－11	ＩＤＢスポーツクラブ
ＧＧ'Ｓ	30－10	岐阜ＭＨＣ（Ｂ）
ＩＤＢスポーツクラブ	13－12	岐阜ＭＨＣ（Ｂ）

▼Dブロック

ＮＩＳＳＨＩＮ	22－15	オールドフェイス
ＮＩＳＳＨＩＮ	17－13	神楽坂フェニックス
オールドフェイス	20－11	神楽坂フェニックス

▼決勝トーナメント１回戦

ＧＧ'Ｓ	17－11	オールドフェイス
シルバースターズ	11－7	ＡＺＺＵＲＲＯ
下松クラブアダルツ	18－12	海自桜錨会
ＮＩＳＳＨＩＮ	23－16	ＩＤＢスポーツクラブ

▼準決勝

シルバースターズ	12－8	ＧＧ'Ｓ
ＮＩＳＳＨＩＮ	23－20	下松クラブアダルツ

▼３位決定戦

下松クラブアダルツ	15－14	ＧＧ'Ｓ

▼決勝

ＮＩＳＳＨＩＮ	**17－13**	**シルバースターズ**

▼3位トーナメント

待兼シニア	14－13	徳山クラブ
神楽坂フェニックス	棄権	岐阜ＭＨＣ（Ｂ）
神楽坂フェニックス	22－20	待兼シニア

【女子】

《交流型》

▼おブロック

あゆみクラブ	12－10	ＨＣ名古屋中部ドリームズ
BABAR'S	10－3	福井シニアレディース
モッピークラブ	12－9	武蔵野クラブ
モッピークラブ	10－9	あゆみクラブ
武蔵野クラブ	11－10	ＨＣ名古屋中部ドリームズ
瀬戸内レディース	10－7	スマイルGifu
BABAR'S	15－9	瀬戸内レディース
スマイルGifu	11－9	福井シニアレディース
ＨＣ名古屋中部ドリームズ	15－3	福井シニアレディース
BABAR'S	12－2	スマイルGifu
武蔵野クラブ	試合中止	モッピークラブ
あゆみクラブ	9－9	瀬戸内レディース

《競技型》

▼Eブロック

小松クラブ	19－8	マミーズ
マミーズ	12－9	スズッキーズ
小松クラブ	25－15	徳山クラブ
小松クラブ	20－15	スズッキーズ
徳山クラブ	13－9	マミーズ
スズッキーズ	17－13	徳山クラブ

▼Fブロック

富山エンジェルス	26－9	風見鶏ファミリー
富山エンジェルス	16－8	Fenice
風見鶏ファミリー	22－11	Fenice

▼7位決定戦

マミーズ	16－14	徳山クラブ

▼5－6位決定戦

Fenice	17－13	徳山クラブ

▼3－4位決定戦

風見鶏ファミリー	21－10	スズッキーズ

▼1－2位決定戦

小松クラブ	**16－15**	**富山エンジェルス**

スコアールーム ②

第20回全国小学生ハンドボール大会

開催期日：2007年7月29日（日）～31日（火）
会　　場：京都府・京田辺市中央体育館ほか

【男 子】

▼予選Aブロック

富岡イーグルス　26（15−1、11−2）3　ジュニアレイカーズ
中央小ハンドボール部　28（15−3、13−3）6　ジュニアレイカーズ
中央小ハンドボール部　13（8−7、5−6）13　富岡イーグルス
〔順位〕①中央小ハンドボール部（熊本県）②富岡イーグルス（群馬県）③ジュニアレイカーズ（滋賀県）

▼男子Bブロック

岐阜MHC　18（8−10、10−5）15　神戸ラスカルズ
小島小ハンドボール部　14（3−2、11−35　安芸高田ハンドボールクラブ
神戸ラスカル部　20（11−3、9−3）6　安芸高田ハンドボールクラブ
小島小ハンドボール部　24（13−5、11−3）8　岐阜MHC
〔順位〕①小島小ハンドボール部（長崎県）②岐阜MHC（岐阜県）③神戸ラスカル部（兵庫県）④安芸高田ハンドボールクラブ（広島県）

▼男子Cブロック

大住小学校ハンドボールクラブ　12（3−6、9−3）9　総社クラブジュニア
東海ハンドボールスクール　14（8−0、6−7）7　三郷ハンドボールクラブ
総社クラブジュニア　12（5−5、7−6）11　三郷ハンドボールクラブ
東海ハンドボールスクール　19（5−4、14−2）6　大住小学校ハンドボールクラブ
〔順位〕①東海ハンドボールスクール（愛知県）②大住小学校ハンドボールクラブ（開催地）③総社クラブジュニア（岡山県）④三郷ハンドボールクラブ（埼玉県）

▼男子Dブロック

神森小学校ハンドボールクラブ　20（10−4、10−4）8　笹川ハンドボール少年団
東久留米ハンドボールクラブ　15（9−5、6−9）14　東根ハンドボールスポーツ少年団
東根ハンドボールスポーツ少年団　23（13−8、10−9）17　笹川ハンドボール少年団
神森小学校ハンドボールクラブ　19（11−4、8−10）14　東久留米ハンドボールクラブ
〔順位〕①神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）②東久留米ハンドボールクラブ（東京都）③東根ハンドボールスポーツ少年団（山形県）④笹川ハンドボール少年団（三重県）

▼男子Eブロック

三松小ハンドボールスポーツ少年団　24（14−2、10−7）9　愛媛ジュニアーズ
安居ブルーサンダースポーツ少年団　24（13−2、11−5）7　真弓クラブ
真弓クラブ　12（8−7、4−4）11　愛媛ジュニアーズ
安居ブルーサンダースポーツ少年団　18（8−2、10−5）7　三松小ハンドボールスポーツ少年団
〔順位〕①安居ブルーサンダースポーツ少年団（福井県）②三松小ハンドボールスポーツ少年団（宮崎県）③真弓クラブ（奈良県）④愛媛ジュニアーズ（愛媛県）

▼男子Fブロック

かやげハンドボールスポーツ少年団　18（10−7、8−10）17　塩山ハンドボールスポーツ少年団
桃園小学校ハンドボールクラブ　15（7−2、8−4）6　塩江ハンドボールスポーツ少年団
塩江ハンドボールスポーツ少年団　26（12−4、14−7）11　塩山ハンドボールスポーツ少年団
桃園小学校ハンドボールクラブ　18（4−7、6−3）14　かやげハンドボールスポーツ少年団
〔順位〕①桃園小学校ハンドボールクラブ（京都府）②かやげハンドボールスポーツ少年団（北海道）③塩江ハンドボールスポーツ少年団（香川県）④塩山ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）

▼男子Gブロック

IDBスポーツクラブ　20（10−1、10−5）6　LHC静岡
スポーツ少年団守谷クラブ　23（12−5、11−2）7　貝塚バーディーズ
貝塚バーディーズ　17（8−1、9−2）3　LHC静岡
スポーツ少年団守谷クラブ　28（10−11、9−8）25　IDBスポーツクラブ
〔順位〕①スポーツ少年団守谷クラブ（茨城県）②IDBスポーツクラブ（山口県）③貝塚バーディーズ④LHC静岡（静岡県）

▼男子Hブロック

下郡ハンドボールスポーツ少年団　23（11−2、12−5）7　上庄ハンドボールクラブ
下郡ハンドボールスポーツ少年団　23（14−0、9−4）4　和歌山ハンドボール教室
上庄ハンドボールクラブ　22（13−4、9−4）8　和歌山ハンドボール教室
〔順位〕①下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）②上庄ハンドボールクラブ（富山県）③和歌山ハンドボール教室（和歌山県）

▼ 男子決勝トーナメント1回戦

小島小ハンドボール部　22（11−3、11−3）6　富岡イーグルス
神森小学校ハンドボールクラブ　18（9−5、9−8）13　東海ハンドボールスクール
安居ブルーサンダースポーツ少年団　19（11−4、8−6）10　桃園小学校ハンドボールクラブ
下郡ハンドボールスポーツ少年団　26（13−6、13−11）17　スポーツ少年団守谷クラブ

▼ 準決勝

小島小ハンドボール部　13（8−7、5−7）14　神森小学校ハンドボールクラブ
下郡ハンドボールスポーツ少年団　21（9−4、12−6）10　安居ブルーサンダースポーツ少年団

▼ 3位決定戦

小島小ハンドボール部　15（6−7、9−6）13　安居ブルーサンダースポーツ少年団

▼ 決勝戦

下郡ハンドボールスポーツ少年団　27（11−7、8−12）25　神森小学校ハンドボールクラブ
（4−5延長2−1）（2　7mTC　0）

【女 子】

▼予選aブロック

窪スポーツ少年団ハンドボール部　12（4−3、8−4）7　小島小ハンドボール部
小島小ハンドボール部　23（12−7、11−4）11　安芸高田ハンドボールクラブ
窪スポーツ少年団ハンドボール部　25（12−3、13−3）6　安芸高田ハンドボールクラブ
〔順位〕①窪スポーツ少年団ハンドボール部（富山県）②小島小ハンドボール部（長崎県）③安芸高田ハンドボールクラブ（広島県）

▼予選bブロック

木田ブルーロケッツ2000　19（7−1、12−1）2　高盛ハンドボールクラブ
富岡ラビッツ　12（5−2、7−2）4　真弓クラブ
高盛ハンドボールクラブ　20（10−1、1−2）3　真弓クラブ
木田ブルーロケッツ2000　21（10−1、11−2）3　富岡ラビッツ
〔順位〕①木田ブルーロケッツ2000（福井県）②富岡ラビッツ（群馬県）③高盛ハンドボールクラブ（北海道）④真弓クラブ（奈良県）

▼予選cブロック

日岡ハンドボールスポーツ少年団　18（8−5、10−6）11　瀬戸オールスターズジュニア
三郷ハンドボールクラブ　24（13−2、11−3）5　和歌山ハンドボール教室
瀬戸オールスターズジュニア　21（10−2、11−1）3　和歌山ハンドボール教室
日岡ハンドボールスポーツ少年団　21（4−7、10−7）17　三郷ハンドボールクラブ
〔順位〕①日岡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）②三郷ハンドボールクラブ（埼玉県）③瀬戸オールスターズジュニア（岡山県）④和歌山ハンドボール教室（和歌山県）

▼予選dブロック

桃園小学校ハンドボールクラブ　14（8−8、6−5）13　三松小ハンドボールスポーツ少年団
塩山ハンドボールスポーツ少年団　18（9−5、9−3）8　小松ジュニアハンドボールクラブ
三松小ハンドボールスポーツ少年団　19（11−3、8−7）10　小松ジュニアハンドボールクラブ
桃園小学校ハンドボールクラブ　20（13−2、7−4）6　塩山ハンドボールスポーツ少年団

〔順位〕①桃園小学校ハンドボールクラブ（京都府）②塩山ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）③三松小ハンドボールスポーツ少年団（宮崎県）④小松ジュニアハンドボールクラブ（石川県）

▼予選eブロック

糸井小学校	17（7−4、10−6）10	LITTLE GUTS
笹川ハンドボール少年団	13（5−5、8−3）8	LITTLE GUTS
笹川ハンドボール少年団	20（5−6、15−7）13	糸井小学校

〔順位〕①笹川ハンドボール少年団（三重県）②糸井小学校（兵庫県）③LITTLE GUTS（山口県）

▼予選fブロック

当山小学校ハンドボール部	20（9−7、11−8）15	貝塚バーディーズ
水海道ハンドボールクラブ	9（5−3、4−5）8	香川県スポーツ少年団オリーブ
貝塚バーディーズ	22（9−6、13−4）10	香川県スポーツ少年団オリーブ
水海道ハンドボールクラブ	16（10−8、6−6）14	当山小学校ハンドボール部

〔順位〕①水海道ハンドボールクラブ（茨城県）②当山小学校ハンドボール部（沖縄県）③貝塚バーディーズ（大阪府）④香川県ハンドボールスポーツ少年団オリーブちゃん（香川県）

▼予選gブロック

高山ミニハンドボールクラブ	13（8−4、5−2）6	東久留米ハンドボールクラブ
薪ハンドボールクラブ	21（11−0、10−1）1	愛媛ジュニアーズ
東久留米ハンドボールクラブ	20（11−1、9−6）7	愛媛ジュニアーズ
高山ミニハンドボールクラブ	11（7−3、4−3）6	薪ハンドボールクラブム

〔順位〕①高山ミニハンドボールクラブ（岐阜県）②薪ハンドボールクラブ（開催地）③東久留米ハンドボールクラブ（東京都）④愛媛ジュニアーズ（愛媛県）

▼予選hブロック

宇土花園小学校	38（18−0、20−0）0	ジュニアレイカーズ
平針南小学校	41（19−0、22−0）0	ジュニアレイカーズ
平針南小学校	14（6−5、8−4）9	宇土花園小学校

〔順位〕①平針南小学校（愛知県）②宇土花園小学校（熊本県）③ジュニアレイカーズ（滋賀県）

▼決勝トーナメント1回戦

窪スポーツ少年団ハンドボール部	10（4−4、6−4）8	木田ブルーロケッツ2000
桃園小学校ハンドボールクラブ	17（7−10、10−5）15	日岡ハンドボールスポーツ少年団
水海道ハンドボールクラブ	22（12−3、10−4）7	笹川ハンドボール少年団
平針南小学校	12（5−6、7−4）10	高山ミニハンドボールクラブ

▼準決勝

窪スポーツ少年団ハンドボール部	17（10−4、7−10）14	桃園小学校ハンドボールクラブ
水海道ハンドボールクラブ	11（6−8、5−2）10	平針南小学校

▼3位決定戦

平針南小学校	14（9−3、5−3）6	桃園小学校ハンドボールクラブ

▼決勝戦

窪スポーツ少年団ハンドボール部	**15（7−3、8−5）8**	**水海道ハンドボールクラブ**

スコアールーム③ 第36回全国中学校ハンドボール大会

開催期日：2007年8月21日（火）～23日（木）
会　　場：福島県・福島市県営あづま総合体育館ほか

【男子】

▼1回戦

御幸山（愛知県）	28（12−10、16−13）23	神森（沖縄県）
香川第一（香川県）	30（13−7、17−13）20	大淀（大阪府）
大体大附（大阪府）	26（10−8、16−6）14	倉敷東（岡山県）
明野（大分県）	26（13−12、19−9）21	菰野（三重県）

▼2回戦

信夫（開催地）	24（11−9、13−8）17	本通（北海道）
手代木（茨城県）	41（15−11、26−18）28	白子（三重県）
吉川中央（埼玉県）	37（18−15、19−11）26	氷見南部（富山県）
月輪（京都府）	24（12−8、12−15）23	御幸（石川県）
けやき台（茨城県）	31（15−7、16−11）18	御幸山（愛知県）
香川第一（香川県）	31（17−13、14−16）29	郡山第一（福島県）
大体大附（大阪府）	30（14−12、16−17）29	三松（宮崎県）
明野（大分県）	30（12−12、18−12）24	岩国（山口県）

▼3回戦

吉川中央	38（16−13、22−12）25	大体大附
けやき台	26（10−11、16−6）17	信夫
月輪	24（12−8、12−11）19	明野
手代木	36（17−13、19−8）21	香川第一

▼準決勝

吉川中央	32（8−9、24−14）23	けやき台
手代木	31（14−11、17−15）26	月輪

▼決勝

吉川中央	**24（9−11、15−11）22**	**手代木**

【女子】

▼1回戦

石川（開催地）	24（11−8、13−13）21	高南（大阪府）
汐路（愛知県）	18（8−5、10−6）11	北浦（茨城県）
住吉第一（大阪府）	20（9−7、11−9）16	松橋（熊本県）
光陽（福井県）	19（9−7、10−7）14	朝明（三重県）

▼2回戦

東陵（愛知県）	16（7−6、9−8）14	神森（沖縄県）
郡山第一（福島県）	23（12−6、11−10）16	総社西（岡山県）
東久留米西（東京都）	20（10−6、10−10）16	小松南部（石川県）
大住（京都府）	24（8−11、16−10）21	三郷北（埼玉県）
本通（北海道）	21（7−8、10−9）19 （1−1　延長3−1）	石川（開催地）
汐路（愛知県）	16（9−7、10−6）13	香東（香川県）
岐陽（山口県）	27（11−10、16−2）12	住吉第一（大阪府）
光陽（福井県）	22（9−7、13−6）13	隼人（鹿児島県）

▼3回戦

東陵	18（11−4、7−6）10	本通
東久留米西	36（10−12、17−15）35 （4 延長 4）（5 7mTC 4）	岐陽
郡山第一	22（11−8、11−8）16	汐路
大住	21（11−7、10−9）16	光陽

▼準決勝

東久留米西	26（13−4、13−11）15	東久留米西
大住	34（17−7、17−9）16	郡山第一

▼決勝

東久留米西	**36（11−13、15−13）34** （5 第1延長 5）（5 第2延長 3）	**大住**

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【北海道】駒林　昭三、藤澤　賢治　【青森】神谷　千章　【岩手】上町　祐隆　【宮城】大河原　浩気　【福島】影山　有理　【茨城】大村　久　【埼玉】平野　和弘、田中　孝、松本　隆栄、渡部　玲　【千葉】鈴木　秀義　【東京】仁平　好則、井岡　弘美、田中　和子、田中　藍、佐藤　佳子　【神奈川】武藤　利之、武藤　りつ子、関　佑里奈　【山梨】天野　盛夫、栗原　富貴子　【富山】旅　文夫、旅　和子　【愛知】星野　真由美、鈴木　伊織、長洞　諒、鶴橋　広賢、前地　裕太、山本　淳子、瀬見井　勇貴、笹野　邦雄、熊田　祐子、出　幸瞭、村上　璃奈、村上　大樹、松井　和也、松井　拓也、小島　巧、原田　龍太郎、沢瀬　敦、荒川　昴平、荒川　周平、宮嶋　青斗、山下　悟史、住田　泰則、小柳　紀子、西村　香代子　【岐阜】尾崎　雄三、尾崎　玲子、中島　明美　【大阪】久保　幸子、宇佐見　英治、白鳥　貴子、望月　滋乃、舟崎　智芳、亀石　正人　【兵庫】新坂　智子、米澤　直実、柿木　國夫　【岡山】小林　恭大、小林　明友美　【広島】両徳　良樹、有田　忍　【佐賀】高橋　里江　【熊本】上野　信行

【10月の行事予定】

【会議】
　10月 3 日(水)　全国理事長会(秋田国体)
　10月13日(土)　常務理事会(東京)

【大会】
　10月4日(木)～8日(月)
　第62回国民体育大会(秋田県・湯沢市)

HAND BALL CONTENTS Oct.

(登録チームの購読料は登録料に含む)

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四八四号

昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可

平成十九年九月二十六日印刷　平成十九年十月一日発行

東京都渋谷区神南一−一−一
電話　代表 〇三−三四八一−二三六一
振替　〇〇一二〇−七−一〇二九三

編集兼発行人　川上憲太

定価　年間三三〇〇円